

## 現代社会学基礎

〔担 当 者〕濱西 栄司 他 3 名  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250A0-1000-o2

## ●本授業の概要：

本授業では、現代社会のさまざまなしくみや問題について幅広く、具体的に提示することで受講生の社会に対する興味関心を喚起する。また、社会の諸問題を発見し、その問題にアプローチし、解決の糸口を見出していくための技法の一端も示していく。現代社会学を担当する教員が、特別講義を含むオムニバス形式で授業をおこなう。

## ●到達目標：

- ①社会学の基礎的な事項について説明できる
- ②現代的なテーマについて社会的観点から考察することができる

## ●成績評価の基準：

- 中間試験：50%（到達目標①）  
 2回のレポート：50%（到達目標②）

## ●留意事項：

本授業では、日常生活上に生起する問題を取り上げている。受講生は、普段から新聞や本に親しみ、社会への広い関心を持つように努めてもらいたい。

オフィスアワー：各担当教員が授業中に指示する。質問等は、基本的にその授業の終了直後か、オフィスアワーで対応する。各担当教員の指示に従うこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 社会学とはどのような学問か（山下）
2. 社会的存在としての人間（山下）
3. 行為者としての人間（山下）
4. 社会秩序を成り立たせているもの（中山）
5. 他者とのかわりの中での生きる個人（中山）
6. 「社会」の影響を受ける個人（中山）
7. 社会学的想像力の涵養を目指して：中間試験（山下・中山）
8. 特別講義（特別講義講師）
9. 産業社会（工業中心社会）の形成（濱西）
10. 産業社会から脱産業社会へ（濱西）
11. 「社会」の消失とグローバル化（濱西）
12. グローバル化という社会現象（二階堂）
13. グローバル化時代における企業活動（二階堂）
14. グローバル化時代における新たな貧困（二階堂）
15. 社会学とはどのような学問か（二階堂）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業の中で、参考文献・資料等を適宜、紹介するので、それらをかならず読んで次の授業に望むこと（各回2・3時間程度）。その際、各自が興味のあることと関連づけて理解し、自身の研究に生かすこと。特別講義については講義テーマについて事前学習を行うこと（4時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

参考文献・資料等については各担当教員が授業中に指示する。

## 社会史基礎

〔担 当 者〕鈴木 真 他 3 名  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250A0-1000-o2

## ●本授業の概要：

本授業は社会史研究の入門編であり、広義の社会史（考古学・民俗学を含む）を担当する教員がオムニバス形式でおこなう。この授業を通して、高校までの世界史・日本史学習とはおおきく異なる社会史研究のあり方を理解する。

高校までの歴史の学習は、教科書の叙述に従って歴史の流れをつかみ、基本的な事項（固有名詞・年号）を理解・暗記することが中心だったと思う。また「答え」は一つであるとしてきたのではないだろうか。それに対して、大学の歴史学研究では史料に基づいて分析・解釈を施し、歴史像を一人一人が再構築していく。歴史像は常に新たに形づくられ、修正され続けているのである。

以上を踏まえて本授業では、さまざまな時代・地域の、名もない人びとの日々の営みやものの考え方などをも対象として、何が史料となり得るのか、どのように史料にアクセスするのか、史料に基づいた分析・解釈の方法とはどのようなものであるのかを、具体的かつ丁寧に紹介する。

## ●到達目標：

- ①現代日本社会での常識や一般的な歴史像を相対化し、説明できる。
- ②史料へのアプローチ方法と多様な分析・解析の方法を修得し、説明できる。

## ●成績評価の基準：

テスト・レポートは、講義担当者4名が各々出題し、採点する（25%×4=100%）（到達目標①②）

## ●留意事項：

歴史学を学ぶことが、それぞれの受講者にとってどのような意義を持つのか。それは、それぞれの顔や個性が千差万別であるように、人それぞれであり、また多種多様であろう。本授業で展開される講義のなかから自分の心に響くものを選びとってほしい。

オフィスアワー：各担当教員が授業中に指示する。質問等は、基本的にその授業終了後か、オフィスアワーで対応する。各担当教員の指示に従うこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 教科書記述における太平天国の比較（鈴木）
2. 太平天国は「反乱」か「起義」か（鈴木）
3. 「革命」から現代中国へ（鈴木）
4. 同時代の史料からみた太平天国（鈴木）
5. 個人の時間と社会（西尾）
6. 歴史の中の時間（西尾）
7. 災害と社会的時間（西尾）
8. 歴史の時間を区切るもの（西尾）
9. 聖書の考古学的解釈（紺谷）
10. 考古学的発掘の具体例（紺谷）
11. 考古学研究と最新技術（紺谷）
12. 現代と考古学（紺谷）
13. 史料としての“民俗”（小嶋）
14. 民俗学の登場（小嶋）
15. 民俗としての宗教（小嶋）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業では資料プリントを配付し、また参考図書、参考 URL を紹介することができる。それらを授業の前後に参照し、理解を深めてもらいたい（毎回3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書・参考書等>

なし

基礎演習

〔担 当 者〕鈴木 真 他 8 名  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250A0-1000-o2

●本授業の概要：

少人数のクラスに分かれてゼミナール形式で授業を行う。研究テーマの選び方や、文献・資料の読み方、レポートの書き方、発表や討論の方法など、現代社会科学で学ぶために必要な研究の基礎を身につけることを目的とする。

●到達目標：

- ①現代社会科学で扱う各領域について、自らの学問的な関心を説明できる。
- ②学問的に公正な態度とは何かを説明し、実行できる。
- ③大学での研究に必要な基礎技術を体得し、応用できる。
- ④ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。

●成績評価の基準：

ブックレポート：50%（400字詰め原稿用紙換算で5～6枚程度を2本）（到達目標①②③）  
口頭発表：30%（到達目標②③④）  
討論への参加：20%（到達目標②③④）

●留意事項：

現代社会科学の1年生は必ず履修しなければならない。指定されたクラスでの少人数の授業となる。

オフィスアワー：各担当教員が授業中に指示する。質問等は、基本的にその授業の終了直後か、オフィスアワーで対応する。各担当教員の指示に従うこと。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. オリエンテーション
2. 図書館オリエンテーション
3. 講義① 資料収集と資料整理
4. 講義② 文献の読み方・まとめ方
5. 講義③ レポートの書き方、原稿執筆の際の注意事項
6. 講義④ 注のつけ方、研究成果の発表
7. 研究成果の発表と全体討論①——大学における研究
8. 研究成果の発表と全体討論②——文献の選び方
9. 研究成果の発表と全体討論③——口頭発表の目的
10. 研究成果の発表と全体討論④——レジュメの記載事項
11. 研究成果の発表と全体討論⑤——発表原稿の作成と時間配分
12. 研究成果の発表と全体討論⑥——聞き手のマナー
13. 研究成果の発表と全体討論⑦——質疑応答
14. 研究成果の発表と全体討論⑧——討論の意義
15. 総括

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）『大学生の研究—その技法とルール—』を使用する前半授業（第3回～6回）では、次回授業で扱う箇所について、事前にテキストを熟読して理解を深めておくこと（各回3時間程度）。

後半授業（第7回～14回）での口頭発表については、研究テーマ・文献の選定や、文献の入念な読み込み、資料・データの収集、様式に則ったレジュメ作成などが必要となる。日ごろから十分に準備をしておくこと（各回3時間程度）。その上で、授業には人数分のレジュメを印刷し、持参すること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

第1週目のオリエンテーション時に購入する『大学生の研究—その技法とルール—』を使用する。

<参考書等>

クラスごとに、そのつど指示する。

現代社会学基礎演習

〔担 当 者〕濱西 栄司 他 3 名  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250A0-1000-o2

●本授業の概要：

基礎演習の成果を踏まえ、現代社会学領域の研究テーマに即して研究の仕方を実践的に学ぶことを目的とする。研究の技法の修得にとどまらず、各領域の研究内容にも踏み込んだ演習授業とする。

●到達目標：

- ①現代社会学領域に対する自らの学問的な関心を説明できる。
- ②実践的な研究能力を体得し、応用できる。
- ③ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。

●成績評価の基準：

レポート2本：50%（ブックレポートは400字詰め原稿用紙換算で5～6枚程度を1本、研究レポートは400字詰め原稿用紙換算で18枚程度を1本）（到達目標①②）  
口頭発表：30%（到達目標①②③）  
討論への参加：20%（到達目標①②③）

●留意事項：

現代社会科学の1年生は、現代社会学基礎演習または社会史基礎演習のいずれかを履修しなければならない。どちらの授業科目を履修するか、またどのクラスで履修するかは、希望に基づく選択制とする。ただし、あくまでも少人数制の授業とするため、1クラスあたりの定員を設け、希望者が定員を超えるクラスが出た場合には調整を行う。

オフィスアワー：各担当教員が授業中に指示する。質問等は、基本的にその授業の終了直後か、オフィスアワーで対応する。各担当教員の指示に従うこと。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

（以下は一例であって、進め方はクラスによって異なる）

1. 講義① オリエンテーション
2. 講義② テーマ設定について
3. 講義③ 研究に必要な技術・方法論について
4. 講義④ 資料の収集方法、資料の読み方について
5. 文献・テキストの輪読①——社会学の多様性を知る
6. 文献・テキストの輪読②——研究論文とは何か
7. 文献・テキストの輪読③——先行研究を批判的に読む
8. 社会学の考え方①——社会現象と概念
9. 社会学の考え方②——社会の記述と分析
10. 社会学の考え方③——文献・データの検討
11. 研究成果の発表と全体討論①——テーマを設定する
12. 研究成果の発表と全体討論②——文献を収集・検討する
13. 研究成果の発表と全体討論③——議論を深める
14. 研究成果の発表と全体討論④——研究レポート執筆に向けて
15. 総括

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）口頭発表については、研究テーマ・文献の選定や、文献の入念な読み込み、資料・データの収集、様式に則ったレジュメ作成などが必要となる。日ごろから十分に準備をしておくこと（毎回3時間程度）。

レジュメの作成にあたっては、1期の授業「基礎演習」で習得した約束事および『大学生の研究—その技法とルール—』に記された様式に照らして、過不足がないか点検すること。その上で、授業には人数分のレジュメを印刷し、持参すること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

「基礎演習」（1期）のオリエンテーション時に購入した『大学生の研究—その技法とルール—』を使用する。その他、クラスによっては、輪読対象とする図書の入手を義務づけることがある。

<参考書等>

クラスごとに、そのつど指示する。

## 社会史基礎演習

〔担当 者〕 鈴木 真 他 4 名  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250A0-1000-o2

## ●本授業の概要：

基礎演習の成果を踏まえ、社会史領域の研究テーマに即して研究の仕方を実践的に学ぶ。研究の技法の修得にとどまらず、各領域の研究内容にも踏み込んだ演習授業とする。

## ●到達目標：

- ①社会史領域に対する自らの学問的な関心を説明できる。
- ②実践的な研究能力を体得し、応用できる。
- ③ゼミナール形式の授業に積極的に参加できる。

## ●成績評価の基準：

レポート2本：50%（ブックレポートは400字詰め原稿用紙換算で5～6枚程度を1本、研究レポートは400字詰め原稿用紙換算で18枚程度を1本）（到達目標①②）  
 口頭発表：30%（到達目標①②③）  
 討論への参加：20%（到達目標①②③）

## ●留意事項：

現代社会学科の1年生は、現代社会学基礎演習または社会史基礎演習のいずれかを履修しなければならない。どちらの授業科目を履修するか、またどのクラスで履修するかは、希望に基づく選択制とする。ただし、あくまでも少人数制の授業とするため、1クラスあたりの定員を設け、希望者が定員を超えるクラスが出た場合には調整を行う。

オフィスアワー：各担当教員が授業中に指示する。質問等は、基本的にその授業の終了直後か、オフィスアワーで対応する。各担当教員の指示に従うこと。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

（以下は一例であって、進め方はクラスによって異なる）

1. 講義① オリエンテーション
2. 講義② テーマ設定について
3. 講義③ 研究に必要な技術・方法論について
4. 講義④ 史資料の収集方法、史資料の読み方について
5. 文献・テキストの輪読①——歴史学の多様性を知る
6. 文献・テキストの輪読②——研究論文とは何か
7. 文献・テキストの輪読③——先行研究を批判的に読む
8. 歴史学の考え方①——歴史事象と概念
9. 歴史学の考え方②——歴史の叙述
10. 歴史学の考え方③——史料批判
11. 研究成果の発表と全体討論①——テーマを設定する
12. 研究成果の発表と全体討論②——史資料を収集・検討する
13. 研究成果の発表と全体討論③——議論を深める
14. 研究成果の発表と全体討論④——研究レポート執筆に向けて
15. 総括

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）口頭発表については、研究テーマ・文献の選定や、文献の入念な読み込み、史資料・データの収集、様式に則ったレジュメ作成が必要となる。日ごろから十分に準備をしておくこと（毎回3時間程度）。

レジュメの作成にあたっては、1期の授業「基礎演習」で習得した約束事および『大学生の研究—その技法とルール—』に記された様式に照らして、過不足がないか点検すること。その上で、授業には人数分のレジュメを印刷し、持参すること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

「基礎演習」（1期）のオリエンテーション時に購入した『大学生の研究—その技法とルール—』を使用する。その他、クラスによっては、輪読対象とする図書の入手を義務づけることがある。

<参考書等>

クラスごとに、そのつど指示する。

## 社会学原論

〔担当 者〕 濱西 栄司  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-1200-o2

## ●本授業の概要：

本授業の目的は、社会学の基礎的な概念や視座について学び、その原理的な特徴を理解することにある。社会学という学問は、つねに同時代の複雑な社会現象を捉えようとしてきた。そのため、普遍的なモデルを發展させることよりも、変わりゆく現実そのものに関する幅広いデータの収集・解釈を重視し、また、あらかじめ政治的観点や経済的観点などに視座を限定するよりも、対象に合わせて総合的・複眼的な分析を行うことを特徴としている。本授業では、その特徴の理解を一つの軸としつつ、テキストと辞書を用いて、社会学の基礎的な概念・視座、及び各専門領域の概要について学んでいく。

## ●到達目標：

- ①社会学の基礎的な概念について説明できる。
- ②社会的な見方・考え方について理解し、実践できる。
- ③社会学を構成する各専門領域の概要を説明できる。
- ④社会学と隣接学問の違いについて説明できる。

## ●成績評価の基準：

授業への取り組み：30%（到達目標②）  
 授業中の確認テスト：35%（到達目標①）  
 期末テスト：35%（到達目標③④①）

## ●留意事項：

・授業の補足説明や追加資料の紹介を、manaba folio の「掲示板」上で行うので、履修者はリマインダーメール設定をしておくこと（第1回の授業で説明する）。

オフィスアワー：授業中に指示する（履修者数に応じて定める）。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. オリエンテーション
2. 社会学とは何か
3. 家族をめぐる社会学
4. 地域・環境をめぐる社会学
5. メディアと情報化をめぐる社会学
6. 階級・階層・教育をめぐる社会学
7. インナートリップ（自己・記憶）としての社会学
8. ジェンダーとセクシュアリティ
9. 国際社会とエスニシティ
10. 社会運動・NPO・ボランティア
11. 環境社会学
12. 教育社会学、法社会学
13. 政治社会学、経済社会学
14. 組織社会学、犯罪社会学
15. 宗教社会学、医療社会学

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）必携のテキストと辞書を用いて、毎回、授業の予習を行い、その成果をルーズリーフに記して提出すること（各回3時間程度）。提出・返却方法等は第1回授業時に説明する。

（復習）授業の補足説明や追加資料の紹介を、manaba folio で行うことがあるので必ずチェックすること。

## 【必携書（教科書販売）】

宇都宮京子編, 2009, 『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房  
 宮島喬編, 2003, 『岩波小辞典 社会学』岩波書店

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 理論社会学

〔担 当 者〕山下 美紀  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2300-o2

## ●本授業の概要：

本講義では、社会学理論のこれまでの流れについて概略を示す。社会に生起している諸問題解決の糸口として、これまで蓄積されてきた社会学の学説や理論を取り上げ、それらの諸理論を用いた社会的接点方法を提示する。

## ●到達目標：

- ①社会学に関する主要な学説や理論を説明することができる。
- ②社会学の理論や概念を用いて、現実社会を分析することができる。

## ●成績評価の基準：

- 中間試験 (1)：20% (到達目標①)  
 中間試験 (2)：20% (到達目標①)  
 期末筆記試験：60% (到達目標①②)

## ●留意事項：

※オフィスアワー 水曜日 3・4時限  
 随時、電子メールで質問を受け付ける

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 理論社会学とはどのような学問か
2. 社会学における理論と実践
3. 社会学の歴史
4. 18・19世紀の社会学
5. 20世紀の社会学
6. 構造機能論・中間試験 (1)
7. 準拠集団と相対的不満
8. 相互作用論
9. 認知的不協和の理論
10. 小集団研究と交換理論
11. 交換理論の展開・中間試験 (2)
12. 互酬の不均衡と権力
13. 逸脱
14. 現代の社会学の研究紹介①
15. 現代の社会学の研究紹介②
16. 期末筆記試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）

日ごろから、社会学に関する基本的な文献や社会学辞典などを読むようにしてもらいたい（各回1時間程度）。

（復習）

授業で取り上げた理論について、必ずそれに関連する文献（授業中に紹介した文献や社会学テキストや辞典など）を読み、理解を深めるようにしてもらいたい（各回2時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

参考文献・資料等については講義中に提示する。  
 必要に応じてプリントを配布する。

## 社会心理学

〔担 当 者〕中山 ちなみ  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2300-o2

## ●本授業の概要：

本講義では、社会心理学における基礎概念や重要研究を解説・紹介し、具体的な事例と関連させながら、人間関係や社会現象について考察してゆく。この考察を通して、「社会的存在」としての人間の意識や行動が、どのように形成され、どのような社会的現象となって現れるのかというメカニズムを理解し、自己および人間・社会への洞察を深める。

## ●到達目標：

- ①社会心理学という学問の特徴と位置づけを述べることができる。
- ②社会心理学で扱われる諸概念を、具体的な事例と関連づけて説明することができる。
- ③社会心理学の研究方法の一つである実験について、その設計やデータの収集方法を説明することができ、また結果の図表を正しく読み取ることができる。
- ④社会心理学の知見を、現代社会に生起する具体的な事象の説明に応用することができる。
- ⑤個人の行為と社会現象との関係を説明することができる。

## ●成績評価の基準：

- 期末筆記試験：80% (到達目標①②③④⑤)  
 課題レポート：10% (到達目標②③④)  
 リアクションペーパー：10% (到達目標①②③④⑤)

## ●留意事項：

授業で紹介した概念や研究成果をただ覚えるのではなく、それらの概念や知見を援用することによって、身の周りのどのような問題が分析・説明できるのかということを考えながら、能動的・積極的な姿勢で授業に臨んでももらいたい。  
 質問等は、原則としてその授業の終了直後かオフィスアワーで対応するが、授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。オフィスアワーについては、授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. イントロダクション
  2. 社会の中の「私」
  3. 自己の2側面
  4. 行為と意識
  5. 行為の意図せざる帰結 (1)
  6. 行為の意図せざる帰結 (2)
  7. 欲求
  8. 態度の一貫性 (1)
  9. 態度の一貫性 (2)
  10. 対人魅力 (1)
  11. 対人魅力 (2)
  12. 援助行動
  13. リーダーシップ
  14. 社会的ジレンマ
  15. まとめ
- 期末筆記試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

ほぼ毎回の授業でプリントを配付する。授業後は、ノートやプリントを読み直して知識を確実なものにしていくとともに、授業で得た知見を実際の社会現象に適用し、説明しようとする姿勢をぜひ身につけてもらいたい。授業を振り返り、ノートをまとめるための時間として、毎回、1～2時間程度の復習を求める。授業中に紹介する参考図書等も積極的に読んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

講義時間中に随時紹介する。



## 社会集団・組織論

〔担当 者〕 濱西 栄司  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2300-o2

### ●本授業の概要：

本授業の主な目的は、社会学の基礎理論の一つである「社会集団・組織論」の理解を通して、現代社会を捉えるための基本的な視座や技法を修得することにある。授業の前半では、経済・政治をめぐる代表的な社会組織（「会社」、協同組合、行政組織、国際機関、NPO・NGO など）を、その近現代史と絡めつつ学ぶ。後半では、多様な社会現象を、集団・組織の戦略的活動や組織関係の現れとして分析していく基本的な視座・技法を修得していく。

### ●到達目標：

- ①代表的な社会組織の歴史と現状について理解し、その概要を説明することができる。
- ②社会現象を、社会組織の活動・連関として捉える姿勢を身につけることができる。
- ③関心のある社会組織を、授業で学ぶ手法のいずれかで分析することができる。

### ●成績評価の基準：

授業への取り組み：30%（到達目標②）  
 確認テスト：30%（到達目標①）  
 期末レポート：40%（到達目標③②①）

### ●留意事項：

・組織の「現場」について知識を得るために、外部ゲストを招いた授業を実施している（ex. 2012年度岡山 NPO センター事務局長他、2013年度岡山信用金庫総務課職員、2015年度財務省岡山財務事務所長、2016年度財務省中国財務局金融監督官、2017年度銀行／公務員転職経験者 OG、2018年度財務省中国財務局金融監督官）。

オフィスアワー：授業中に指示する（履修者数に応じて定める）。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. オリエンテーション：社会学と社会集団・組織論  
 <第Ⅰ部 様々な組織>
2. 類型とアソシエーション  
 ——市場と雇用——
3. 会社の近現代史、及び企業倫理と企業の社会的責任（CSR）
4. 同業組合／労働組合の近現代史
5. 協同組合・NPO・社会的企業  
 ——法と権力——
6. 近代・国民国家の形成
7. 国際問題とグローバル・ガバナンス
8. 社会運動 ／ 確認テスト
- <第Ⅱ部 組織へのアプローチ>
9. 社会組織研究①：全体像と意義、及び一般理論（歴史的）
10. 組織研究②：一般理論（心理・精神分析的／人類・社会心理的）
11. 組織研究③：一般理論（経済学的）
12. 組織研究④：部分理論
13. 組織研究⑤：事例・問題からのアプローチ
14. まとめとこれから

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）第Ⅰ部では、授業予定一覧に示した各テーマについて、書籍・論文【注1】・新聞・TV・Web 等で情報を収集しておくこと。第Ⅱ部では、自分が関心をもつ社会組織について文献やウェブサイトから情報を収集していくこと（いずれも各回1時間程度）。

【注1】論文は最も信頼できる情報源であるが、「J-stage」のウェブサイト上で数多く無料で公開されている。ぜひ利用して準備学習に生かしてほしい。  
 （復習）授業中の説明や配布資料にもとづいて授業を振り返り、また改めて関連情報を収集し理解を深めておくこと。manaba folio を活用して、教員がリフレクションシートに記された質問等に答えたり、補足説明をしたりする。また補足資料を添付・配布することもあるので、それらを読んで自分の理解が正しいかを確認しておくこと（各回1時間程度）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 地域社会学

〔担当 者〕 二階堂 裕子  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

### ●本授業の概要：

本講義の目的は、現代における地域社会の諸問題への理解と関心を深め、新たな社会システムの構築のために、今後、私たちが進むべき方向性を考察することである。

まず、私たちが日常生活を営む地域社会というものの捉え方やその成り立ちを学ぶ。そのうえで、戦後の高度成長期を経て、日本の地域社会がどのような問題に直面するようになったのかを理解する。さらに、少子高齢化、急激な景気悪化、グローバル化などの社会変動が、今日の地域社会にどのような影響を与えているかについて検討する。

### ●到達目標：

- ①地域コミュニティの変容を促したメカニズムや、今日の社会が直面している諸問題を説明できる。
- ②自らと地域社会の関係を批判的に再考し、その成果を論じることができる。
- ③現代の地域社会を取り巻く諸問題の解決に向けて、広い視野から行動できる。

### ●成績評価の基準：

リアクションペーパー（授業で学んだことや意見）：30%（到達目標①②）  
 期末試験：70%（到達目標①②③）  
 ただし、試験をレポートに変更する可能性もある。

### ●留意事項：

- ・自分をとりまく地域社会の動向や諸課題に関心をもつこと。
- ・オフィスアワーは、授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 地域社会とコミュニティ
2. コミュニティ問題の登場
3. 都市化と地域社会における変容
4. 町内会とコミュニティ形成
5. コミュニティ活動における自治体・住民・NPO の関係
6. コミュニティ・センター
7. コミュニティ活動
8. 子育てと地域社会
9. 高齢化と地域社会
10. 中山間地域における過疎化
11. 地方都市の衰退と再生
12. インナーシティ問題の発生
13. 安全・安心な生活と地域社会
14. グローバル化と地域社会
15. 多民族・多文化化とコミュニティ形成
16. 期末試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（復習）授業で扱った内容について、配布した資料を熟読するほか、新聞などの情報を収集し、自分の見解をまとめておくこと（毎回3時間程度）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

講義中に適宜資料を配布するほか、参考書なども紹介する。

## 家族社会学

〔担当 者〕 山下 美紀  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

本講義では、家族変動を読み解く基本的な理論と方法論を提示し、現代の家族に迫る。歴史の中で変転を遂げてきた家族の姿を追い、現代家族の抱える問題を析出する。家族および人と人のつながりを考えていく手がかりを提示する。講義中心であるが、グループ討議や発表の機会を持つ。

## ●到達目標：

- ①家族研究の基礎的理論・学説および基本的用語を説明することができる。
- ②家族変動を社会的な分析視点から説明することができる。
- ③家族にかかわる現代的諸問題を、自分の生き方と関連付けながら考察・説明することができる。

## ●成績評価の基準：

中間試験：20%（到達目標①）  
 レポート：20%（到達目標③）  
 期末筆記試験：60%（到達目標①②③）

## ●留意事項：

※受講生が家族に対してどのような意識をもっているかについて、アンケート調査を行う。

※オフィスアワー 水曜日 3・4時限  
 随時、電子メールで質問を受け付ける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 家族研究への招待・アンケート
2. 家族研究の紹介
3. 社会と家族と個人（プレゼンテーション・ディスカッション）
4. 家族イメージの変容
5. 社会の変化と家族の変容
6. 近代社会と家族と子ども・中間試験①
7. 日本型近代家族と「家」
8. 近代家族の揺らぎ
9. 世界の家族
10. 現代の子ども事情
11. 現代の夫婦事情・中間試験②
12. 愛・性・結婚
13. 日本の婚姻動向と婚姻観
14. 潜在的機能ストレス
15. 家族の現代的意味を問う
16. 期末筆記試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）授業の前日までに、授業中に提示した文献や資料を読んでくようしてもらいたい（各回1時間程度）。  
 （復習）授業で取り上げたトピックスについて、各自で資料や統計などを探して、理解を深めてもらいたい（各回2時間程度）。  
 （全体）家族にかかわる話題（ニュース・ドラマ・映画・講演会・シンポジウム）に積極的に触れ、参加し、自分なりの家族論を論じられるようになって欲しい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書＞  
 『現代家族を読み解く12章』、日本家政学会編、丸善出版。

## ジェンダー論

〔担当 者〕 山下 美紀  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

本講義では、日常生活において自明視されている「ジェンダー」や「性」にまつわるさまざまな常識を取り上げ、検討を加える。さらに、社会・文化的な性のありようを作り出している構造を解き明かし、現代的課題を提示する。

## ●到達目標：

- ①ジェンダー問題を自分にひきつけて考えることができる。
- ②日常生活にあふれているさまざまなジェンダー構造に気づき、そこに含まれている問題点を整理することができる。
- ③課題の解決の方策を講ずることができる。

## ●成績評価の基準：

レポート・中間試験・期末筆記試験の結果を総合的に評価する。

レポート：20%（到達目標①）  
 中間試験：20%（到達目標②③）  
 期末筆記試験：60%（到達目標①②③）

## ●留意事項：

※講義中心であるが、グループ討議や発表の機会を取り入れることもある。

※オフィスアワー 水曜日 3・4時限  
 随時、電子メールで質問を受け付ける。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 「ジェンダー」学問領域の誕生と発展
2. ジェンダー論の基礎① フェミニズムの歴史
3. ジェンダー論の基礎② 性の二分法
4. ジェンダー論の基礎③ ジェンダーをめぐる身体
5. ジェンダーの社会的構築
6. ジェンダー秩序とジェンダー体制
7. ジェンダーの再生産過程・中間試験
8. 家族間葛藤とジェンダー
9. 女性の労働と職場環境
10. 教育におけるジェンダートラップ
11. メディアとジェンダー
12. 男性学と女性学
13. ジェンダー研究の紹介①
14. ジェンダー研究の紹介②
15. 現代社会とジェンダー  
 期末筆記試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業の前半部分では、ジェンダー研究の基本的な文献を紹介するので、それらを読んで理解を深めてもらいたい（各回3時間程度）。  
 後半部分では、さまざまなトピックを取り上げて紹介するので、それらに関して各自で調べるなど、発展的な理解に結びつけるよう授業外学習を行なってもらいたい（各回3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 参考文献・資料等については講義中に指示する。  
 適宜資料を配布する。

## 社会調査論Ⅰ

〔担 当 者〕濱西 栄司  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-1200-o2

## ●本授業の概要：

社会調査は、研究課題の設定、データの収集・分析、考察・公表というプロセスを通して、社会についての認識をより深くするための重要な方法のひとつである。本授業では、社会調査の意義や目的、手法など、社会調査の基本的事項について説明し、社会調査の開始段階から量的・質的データ収集の準備段階までの過程について具体的に解説していく。

## ●到達目標：

- ①社会調査の意義や目的、手法など、社会調査の基礎的な知識を身につけ、また正しい方法で調査を実施することの重要性を理解できる。
- ②さまざまな組織（大学、行政、企業、メディアや各種団体）によって実施されている調査の結果を批判的に読み取ることができる。

## ●成績評価の基準：

レポート：35%（到達目標①②）  
 期末試験：65%（到達目標①②）

## ●留意事項：

オフィスアワー：授業中に指示する（履修者数に応じて定める）。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. オリエンテーション
2. 社会調査へようこそ：社会調査とは
  - (1) 社会調査の定義 (2) 社会調査の目的 (3) 量的調査と質的調査
3. 社会調査へようこそ：社会調査史
  - (1) 社会調査の系譜 (2) 社会調査の類型
4. 社会調査のファースト・ステップ：研究テーマの設定
5. 社会調査のファースト・ステップ
  - (1) 先行研究の検討 (2) 公的統計
6. 社会調査のファースト・ステップ：既存データの活用と注意点
  - (1) 過去の学術調査 (2) 世論調査・マーケティング
7. 社会調査の基本ルールと基本の道具：研究課題と調査方法論
  - (1) 記述 (2) 説明
8. 社会調査の基本ルールと基本の道具：研究課題と調査方法論
  - (1) 概念の操作化 (2) 変数・仮説
9. 調査票の作成1: (1) 仮説から質問文へ (2) 調査票作成の手順
10. 調査票の作成2: (1) 質問文の作り方 (2) ワーディング
11. 調査票の作成3: (1) 選択肢と回答形式の検討 (2) 全体のレイアウト
12. 質的調査の基本1: (1) 問題意識と研究課題 (2) 事前調査
13. 質的調査の基本2: (1) 関与とラポール形成 (2) 調査依頼と交渉
14. 調査倫理: (1) 調査公害 (2) マイノリティ事例・紛争事例の場合
15. まとめ
16. 期末試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）必携のテキストを用いて授業の予習を行うこと。あわせて新聞・Web等から授業に関連する情報を収集し、検討しておくこと（各回2-3時間程度）。  
 （復習）授業での解説をふまえ、また改めて関連情報を収集し、テキストを深く理解するとともに、授業全体の流れをおさえておくこと（各回1時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編, 2013, 『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法』ミネルヴァ書房。【類似タイトルの書籍が多数、存在するので注意を】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

盛山和夫, 2004, 『社会調査法入門』有斐閣  
 岸政彦・石岡丈昇・丸山里美, 2016, 『質的社会調査の方法——他者の合理性の理解社会学』有斐閣

## 社会調査論Ⅱ

〔担 当 者〕中山 ちなみ  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2300-o2

## ●本授業の概要：

社会調査は、データの収集・分析・理論構築というプロセスを通して、社会についての認識をより深くするための重要な方法のひとつである。本講義では、調査票調査の場合を中心に、調査票の作成、サンプリング以降の調査の設計・実施と、収集したデータの扱い方に関する具体的な方法について解説する。これにより、社会調査によってデータを収集し、分析しうる形に整理していくための一連の具体的な作業を理解し、実際に調査を実施できるようになるための基礎的な知識と技法を身につけることを目的とする。

## ●到達目標：

- ①調査票の作成やサンプリングなど、調査票調査の調査設計（主として社会調査の後半部）について正しく理解し、それらの実施方法について具体的に説明することができる。
- ②調査票の配布と回収について、作業手順や注意事項等を具体的に説明することができる。
- ③収集したデータの整理やデータファイル化について、作業手順や注意事項等を具体的に説明することができる。
- ④量的データを適切な統計学の手法を用いて分析・解釈し、適切に図示することができる。
- ⑤研究におけるデータの位置づけや、データの解釈時に犯しやすい誤りを理解し、データの扱いに際して慎重な態度を持つことができる。

## ●成績評価の基準：

期末筆記試験：80%（到達目標①②③④⑤）  
 レポート・提出物：15%（到達目標④⑤）  
 リアクションペーパー：5%（到達目標①②③④⑤）

## ●留意事項：

本授業は社会調査士資格に関わる科目であるが、資格取得意思の有無に関わらず、社会的な分析視点と手法を習得しようとする者は積極的に受講してほしい。また、自身の研究や日常生活の中で社会調査のデータを利用する際にも、授業で得た知識を活用・応用していく姿勢を身につけてもらいたい。

質問等は、原則としてその授業の終了直後かオフィスアワーで対応するが、授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。オフィスアワーについては、授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 調査票の作成
  2. サンプリング (1)
  3. サンプリング (2)
  4. 調査の実際
  5. 調査票の回収と整理
  6. 質的調査のデータの回収と整理
  7. データ・ファイルの作成
  8. 変数と尺度
  9. データの分析と図表の作成：単純集計
  10. データの分析と図表の作成：基礎統計量
  11. データの分析と図表の作成：クロス集計
  12. データの分析と図表の作成：相関係数
  13. 研究論文・報告書の中でのデータの位置づけ
  14. 検定の考え方
  15. 情報リテラシーを身につけるために
- 期末筆記試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

ほぼ毎回の授業でプリントを配付する。授業後は、ノートやプリントを読み直したり、授業内容と対応するテキストの箇所を読むなどして、知識を確実なものにしていくことが大切である。授業を振り返り、ノートをまとめるための時間として、毎回、1～2時間程度の復習を求める。授業中に紹介する参考図書等も積極的に読んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

『新・社会調査へのアプローチ——論理と方法——』, 大谷信介他編, ミネルヴァ書房

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

『社会調査法入門』盛山和夫, 有斐閣  
 『社会学研究法・リアリティの捉え方』今田高俊編, 有斐閣  
 その他、講義時間中に随時紹介する。

社会調査論Ⅱ

〔担 当 者〕二階堂 裕子  
〔開 講 期〕2期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250B0-2300-o2

●本授業の概要：

社会調査法を大別すると、量的なデータを扱う方法と質的なデータを扱う方法の2つに分類される。この授業では、後者の「質的調査法」を取り上げ、質的なデータの収集と分析の方法を学ぶ。また、質的調査を実施するうえでふまえておくべき倫理問題や、質的調査の応用の可能性について理解する。

●到達目標：

- ①質的調査の考え方やその意義について説明できる。
- ②さまざまな質的調査の技法と分析の方法、および質的調査のプロセスについて説明できる。
- ③質的なデータの収集とそれらの分析を実行できる。

●成績評価の基準：

リアクションペーパー(授業で学んだことや意見)：30%(到達目標①②)  
期末試験：70%(到達目標①②③)  
ただし、試験をレポートに変更する可能性もある。

●留意事項：

- ・資格に関わる科目でもあり、遅刻・欠席は厳禁とする。
- ・オフィスアワーは、授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1. オリエンテーション
- 2. 質的調査の考え方
- 3. 調査技法1: フィールドワーク
- 4. 調査技法2: 参与観察法 (1)
- 5. 調査技法3: 参与観察法 (2)
- 6. 調査技法4: インタビュー (1)
- 7. 調査技法5: インタビュー (2)
- 8. 調査技法6: ワークショップ
- 9. 分析技法1: ライフストーリー分析
- 10. 分析技法2: ドキュメント分析
- 11. 質的調査の実践1: 調査の企画
- 12. 質的調査の実践2: データの収集
- 13. 質的調査の実践3: 分析と報告
- 14. 質的調査と倫理
- 15. 質的調査の応用
- 16. 期末試験

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

(復習) 授業で扱った内容について、教科書の該当部分や配布した資料を熟読し、理解を深めておくこと(毎回3時間程度)。

【必携書(教科書販売)】

『よくわかる質的社会調査 技法編』, 谷富夫・芦田徹郎編著, ミネルヴァ書房

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

授業中に、適宜資料を配布するほか、参考書なども紹介する。

社会統計学 I [a]

〔担 当 者〕中山 ちなみ  
〔開 講 期〕1期  
〔授 業 形 態〕講義・実習 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250B0-2300-o2

●本授業の概要：

この授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には、単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法(クロス表、平均値の差、相関係数など)、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることのできる能力を身につけることが目標となる。

さらに、実際にコンピュータを用いて実習形式で学ぶことにより、統計学の知識だけでなく、Excel、Word等のアプリケーション・ソフトに習熟し、適切な形式でレポートを作成するためのスキルも身につける。

●到達目標：

- ①単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図などの1変数に関する情報を読み取ることができ、その図表を自身で作成できる。
- ②平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、それらを算出できる。
- ③相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、適切な分析と図表の作成ができる。
- ④因果関係と相関関係の違い、疑似相関などについて説明することができる。
- ⑤表計算ソフト(Excel)での分析と図表の作成ができる。
- ⑥量的なデータに基づく適切なレポートが作成できる。

●成績評価の基準：

期末筆記試験：60%(到達目標①②③④⑤⑥)  
授業中の提出課題：30%(到達目標①②③④⑤⑥)  
授業中の取り組みと実習：10%(到達目標①②③④⑤⑥)

●留意事項：

講義とともに、コンピュータを使用しての実習をおこなう。  
[a]・[b]の2クラスを設けるが、履修者数が少ない場合は[a]クラスのための開講とする。また、2クラスの履修者数の合計がパソコン台数を超過した場合は人数制限をおこなう。クラス分けについては、4月のオリエンテーション時に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。  
質問等は、原則としてその授業の終了直後かオフィスアワーで対応するが、授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。特に、実習作業中のわからない点は、わからないまま放置せず、必ずその場で質問すること。オフィスアワーについては、授業中に指示する。  
数字に対する苦手意識を持たず、実習に積極的に取り組んで理解を深めてもらいたい。また、授業で得た知識を、自身の研究や日常生活の中で社会調査のデータを読む際にも活用・応用していく姿勢を身につけてもらいたい。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1. イントロダクション
- 2. 統計資料の整理 (1) 統計資料の読み方
- 3. 統計資料の整理 (2) 統計資料の整理方法
- 4. データの集計 (1) 度数分布、ヒストグラム、平均、中央値、最頻値
- 5. データの集計 (2) 分散、標準偏差
- 6. データの集計 (3) 標準化
- 7. 2変数の関係をみる (1) クロス集計
- 8. 2変数の関係をみる (2) 平均の差
- 9. 2変数の関係をみる (3) 相関係数
- 10. 2変数の関係をみる (4) 相関関係と因果関係
- 11. 2変数の関係をみる (5) 疑似相関
- 12. 事象・試行 (1) 事象とは、試行とは
- 13. 事象・試行 (2) 和集合、積集合
- 14. データを用いた演習
- 15. まとめ  
期末筆記試験

●準備学習(予習・復習)に必要な学修内容：

授業では、講義とともにコンピュータを用いた実習をおこなう。授業後は、ノートやプリントを読み直して知識を確実なものにするだけでなく、コンピュータを実際に操作しながら実習内容を復習することも必要である。期末筆記試験は、コンピュータの操作にも習熟しておかなければ対応できない。毎回、1～2時間程度の復習時間を作り、前回の授業内容をマスターしたうえで次の授業に臨むこと。

【必携書(教科書販売)】

【必携書・参考書等(教科書販売以外)】

<参考書等>

講義時間中に随時紹介する。



社会統計学 I [b]

[担 当 者] 中山 ちなみ

[開 講 期] 1 期

[授 業 形 態] 講義・実習 [単位] 2

[科目ナンバリング] 250B0-2300-o2

●本授業の概要：

この授業では、計量的なデータを読み解くための基礎知識と技法について学習する。具体的には、単純集計、クロス集計、ヒストグラムなどの作成方法、平均値、分散などの基礎統計量の意味と算出方法、2変数間の関係の記述方法（クロス表、平均値の差、相関係数など）、相関関係と因果関係の違い・疑似相関について学習する。また、各種統計資料の整理方法についても併せて学習する。以上の作業を通して、統計的なデータを適切に処理し、その結果から諸傾向を読み取ることでできる能力を身につけることが目標となる。

さらに、実際にコンピュータを用いて実習形式で学ぶことにより、統計学の知識だけでなく、Excel、Word 等のアプリケーション・ソフトに習熟し、適切な形式でレポートを作成するためのスキルも身につける。

●到達目標：

- ①単純集計、クロス集計、ヒストグラム、散布図などの1変数に関する情報を読み取ることができ、その図表を自身で作成できる。
- ②平均値や分散などの基礎統計量の意味を理解し、それらを算出できる。
- ③相関係数や平均値の差など2変数間の関係を記述する方法を理解し、適切な分析と図表の作成ができる。
- ④因果関係と相関関係の違い、疑似相関などについて説明することができる。
- ⑤表計算ソフト（Excel）での分析と図表の作成ができる。
- ⑥量的なデータに基づく適切なレポートが作成できる。

●成績評価の基準：

期末筆記試験：60%（到達目標①②③④⑤⑥）  
授業中の提出課題：30%（到達目標①②③④⑤⑥）  
授業中の取り組みと実習：10%（到達目標①②③④⑤⑥）

●留意事項：

講義とともに、コンピュータを用いた実習をおこなう。  
[a]・[b]の2クラスを設けるが、履修者数が少ない場合は[a]クラスのみを開講とする。また、2クラスの履修者数の合計がパソコン台数を超過した場合は人数制限をおこなう。クラス分けについては、4月のオリエンテーション時に説明するので、履修希望者は必ず出席すること。  
質問等は、原則としてその授業の終了直後かオフィスアワーに対応するが、授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。特に、実習作業中のわからない点は、わからないまま放置せず、必ずその場で質問すること。オフィスアワーについては、授業中に指示する。  
数字に対する苦手意識を持たず、実習に積極的に取り組んで理解を深めてもらいたい。また、授業で得た知識を、自身の研究や日常生活の中で社会調査のデータを読む際にも活用・応用していく姿勢を身につけてもらいたい。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1. イントロダクション
  - 2. 統計資料の整理 (1) 統計資料の読み方
  - 3. 統計資料の整理 (2) 統計資料の整理方法
  - 4. データの集計 (1) 度数分布、ヒストグラム、平均、中央値、最頻値
  - 5. データの集計 (2) 分散、標準偏差
  - 6. データの集計 (3) 標準化
  - 7. 2変数の関係をみる (1) クロス集計
  - 8. 2変数の関係をみる (2) 平均の差
  - 9. 2変数の関係をみる (3) 相関係数
  - 10. 2変数の関係をみる (4) 相関関係と因果関係
  - 11. 2変数の関係をみる (5) 疑似相関
  - 12. 事象・試行 (1) 事象とは、試行とは
  - 13. 事象・試行 (2) 和集合、積集合
  - 14. データを用いた演習
  - 15. まとめ
- 期末筆記試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業では、講義とともにコンピュータを用いた実習をおこなう。授業後は、ノートやプリントを読み直して知識を確実なものにするだけでなく、コンピュータを実際に操作しながら実習内容を復習することも必要である。期末筆記試験は、コンピュータの操作にも習熟しておかなければ対応できない。毎回、1～2時間程度の復習時間を作り、前回の授業内容をマスターしたうえで次の授業に臨むこと。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>  
講義時間中に随時紹介する。

社会統計学 II

[担 当 者] 山本 圭三

[開 講 期] 1 期

[授 業 形 態] 講義 [単位] 2

[科目ナンバリング] 250B0-2300-o2

●本授業の概要：

計量的データをもちいた分析は、統計学的な裏づけによって支えられている。この講義は、計量的な調査データを用いた実証研究に必要な統計的知識を学ぶものである。具体的に取り上げる内容は、変数の種類、代表値、 $\Sigma$ 、分散と標準偏差、相関係数、回帰直線、確率変数、確率分布、正規分布、t分布、 $\chi^2$ 分布、母平均・母分散の推定、帰無仮説、平均の差の検定、母相関係数の検定、独立性の検定、エラボレーションなどで、これらを体系的に習得することが本講義の目的である。

●到達目標：

- ①確率変数・確率分布について説明できる。
- ②確率分布を用いた推定をおこなうことができる。
- ③統計的仮説検定の原理について説明できる。

●成績評価の基準：

筆記試験（正確な理解度、実践的な応用、概念・原理の論理的説明力を問う）：80%（到達目標①②③）  
提出物等（正確な理解度を問う）：20%（到達目標①②③）

●留意事項：

毎授業終了時に、教室にて質問を受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1. イントロダクション  
——講義に関する注意事項
  - 2. 基礎的知識1  
——変数の種類、尺度水準、 $\Sigma$
  - 3. 基礎的知識2  
——基本統計量（平均値・中央値・最頻値・分散・標準偏差）、相関係数、回帰直線
  - 4. 確率1  
——確率と確率変数
  - 5. 確率2  
——確率変数の期待値、分散
  - 6. 確率3  
——同時確率変数、同時確率変数の独立性
  - 7. 確率4  
——二項分布
  - 8. 確率5  
——正規分布、t分布、 $\chi^2$ 分布
  - 9. 推測統計の基礎1  
——母集団と標本、推定の考え方
  - 10. 推測統計の基礎2  
——母平均、母分散の推定
  - 11. 推測統計の基礎3  
——信頼区間
  - 12. 統計的仮説検定1  
——母相関係数の検定
  - 13. 統計的仮説検定2  
——平均の差の検定
  - 14. 統計的仮説検定3  
——クロス表の独立性の検定
  - 15. エラボレーション
- 筆記試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・授業毎に小課題を設定するので、次の時間までに課題を終わらせておくこと（15分程度）。
- ・翌日までの課題を授業時に指示するので、翌日にその成果を提出すること（1時間）。
- ・翌日の授業までに配布された資料を精読し、理解できていない箇所をなくしておく（30分～1時間）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
テキストは使用しない。毎時間配布される資料をもとに授業を進める。  
<参考書等>  
小寺平治『ゼロから学ぶ統計解析』（2002年、講談社）を推薦する。

現代社会学特講Ⅱ

〔担 当 者〕秋風 千恵  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o2

●本授業の概要：

本授業では、まず「障害」という概念の変遷を説明する。そのうえで、障害をめぐる今日的な問題、出生前診断、教育においてはインクルーシブに向かう世界の動きに逆流するかのような日本の動き、障害者雇用、ジェンダーという変数が障害に及ぼす影響等々について考察する。本授業の特徴は、軽度障害者に言及することである。従来の障害者論では語られてこなかった障害者像を、社会学的に考察していく。視聴覚資料を用いてグループ討議を行う予定である。また、例えば2016年に起こった元施設職員が19人もの施設入所者を殺害した相模原事件や、旧優生保護法による強制不妊手術によって被害を受けた当事者が国を相手取って起こした現在進行中の裁判など具体的な問題にも触れながら、現在の日本における障害者問題について考察する。

●到達目標：

「障害」に対する社会通念を根底から構築し直し、社会学的に考察することによって、障害を情緒的にとらえるのではなく、社会の問題として理解し考察していける力を養う。

●成績評価の基準：

リアクションペーパー（授業で学んだことについての意見）や受講態度：20%  
レポート：80%

●留意事項：

・質問は随時受け付けます。  
・電子メールでの質問も可。アドレスは最初の講義時に知らせます。  
※近年、障害者に関する法整備が次々に行われており、社会的関心も高まっています。授業では最新情報を提供し読み解いていきますが、受講生も日頃から新聞等によく目を通しておいください。

●実務経験の授業への活用方法：

・障害者入所施設で相談員として勤務していた経験がある。  
※なお、私自身が先天性の四肢障害がある障害当事者です。

●授業予定一覧：

1. イントロダクション
2. 障害者とはだれか
3. 「障害」とはなにか1：歴史的に考える
4. 障害者運動：コンフリクトの時代
5. 「障害」とはなにか2：障害の社会モデル
6. 障害者が生まれる1：優生思想
7. 障害者が生まれる2：出生前診断
8. 障害者と教育1：日本における歴史
9. 障害者と教育2：世界の動き
10. 障害者と就労
11. 可視化された軽度障害者
12. 「どっちつかず」を生きる人々
13. 障害とジェンダー1
14. 障害とジェンダー2
15. まとめ

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業では毎回、授業内容についての詳細なレジュメを準備し、板書、関連するDVDの上映も予定しています。できれば資料等をもう再度熟読して、翌日の授業へのぞんでください。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

〈必携書〉  
用いません。

〈参考書〉

秋風千恵著、『軽度障害の社会学―「異化&統合」をめざして』、ハーベスト社  
その他の参考書は講義の中で紹介します。  
授業中に適宜資料を配布するほか、DVDの視聴も予定しています。

現代社会学特講Ⅲ

〔担 当 者〕濱西 栄司  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o2

●本授業の概要：

サブタイトル：環境社会学入門

本授業の主な目的は、社会学の専門領域の一つである「環境社会学」の知見について学び、人間と環境の関わりとその歴史、および様々な環境問題の社会的メカニズム／解決策を、理解するための視座と技法を修得することにある。基本的にテキストに沿って授業を進めるが、岡山・瀬戸内地域の環境問題、気候変動に関する国際会議、開発途上国の環境NGOなどに関する独自の資料・映像等も併せて使用する。

●到達目標：

- ①人間と環境の関係性とその変化について理解し、その概要を説明することができる。
- ②環境問題の原因や解決策について、社会学的に考察する姿勢を身につけることができる。

●成績評価の基準：

授業への取り組み：35%（到達目標②）  
確認テスト：20%（到達目標①）  
期末レポート：45%（到達目標①②）

●留意事項：

・岡山市、岡山NPOセンター、生涯学習センター、備中県民局などが実施するSDGsやESD関係のイベントを授業で、あるいはmanaba folio上で紹介することがある。各担当者を授業に招いて、直接、イベントの紹介をして頂く時間をとることもある。

オフィスアワー：授業中に指示する（履修者数に応じて定める）。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. オリエンテーション：社会学と環境社会学
- <第Ⅰ部 人間と環境の関係>
2. 人間社会と環境を考える
  3. 自然保護を考える
  4. 身近な自然を考える
  5. 生活と水を考える
  6. 農と食を考える
- <第Ⅱ部 環境問題の原因と解決>
7. ゴミ問題を考える
  8. 環境NPO/NGO・ボランティア・市民活動を考える（1）歴史
  9. 環境NPO/NGO・ボランティア・市民活動を考える（2）現在
  10. まちづくり／地域づくりと環境を考える
  11. 歴史的環境と景観を考える
  12. 公害・差別・リスクを考える
  13. 開発と資源・エネルギー問題を考える
  14. 地球環境問題を考える
  15. 総括：環境社会学とはなにか

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）必携のテキストを用いて授業の予習を行い、また論文【注1】・新聞・Web等から関連情報も収集し、それらの成果や内容をルーズリーフやリフレクションシートに記して提出すること（各回2.3時間程度）。

【注1】学術論文は最も信頼できる情報源であるが、「J-stage」のウェブサイト上で数多く無料で公開されている。ぜひ利用して準備学習に生かしてほしい。とくに『環境社会学研究』（環境社会学会）に掲載されている各論文を推奨する。

（復習）授業での解説をふまえ、また改めて関連情報を収集し、テキストを深く理解するとともに、授業全体の流れをおさえておくこと。manaba folioを活用して、リフレクションシートに記された質問等に答えたり、補足説明をしたりする。また補足資料を添付・配布することもあるので、それらを読んで自分の理解が正しいかを確認しておくこと（各回1時間程度）。

【必携書（教科書販売）】

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学（第2版）』、ミネルヴァ書房【必ず「第2版」を購入すること】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 現代社会学特講Ⅳ

〔担 当 者〕 中山 ちなみ  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

現代は、人びとの「つながり」に強い関心が向けられる一方、人びとの集団やネットワークへの参加を困難にする社会的要因が多くあることも指摘されている。本講義では、社会参加の要件の一つとなりうる「信頼」「互酬性」をキーワードとして、社会学や社会心理学の知見を援用しながら、社会参加の阻害・促進要因について考察する。それにより、現代社会において、人びとがつながりを構築し連帯するためには何が課題とされるのかを各自が模索するための手がかりとしたい。

## ●到達目標：

- ①現代社会の事象に関心を持ち、身近な事象をよく観察して、それをより大きな社会の問題と関連づけることができる。
- ②「個人化」という概念を理解し、説明することができる。
- ③資料やデータを用いて、社会の現状を的確に指摘できる。
- ④情報化や消費社会など、現代社会の諸事象を論じる社会学・社会心理学の理論や概念について理解し、それと現実の社会事象とを関連づけて考察することができる。
- ⑤社会参加の意義を理解し、その阻害要因を説明できると同時に、人びとの社会参加を促すための課題について、自分なりの意見を持つことができる。

## ●成績評価の基準：

期末レポート課題：65%（到達目標①②③④⑤）  
 中間課題（小テストを含む）：25%（到達目標①②）  
 リアクションペーパー：10%（到達目標①②③④⑤）

## ●留意事項：

授業で紹介する事例や、自分の身の周りで起こっている問題を、社会学・社会心理学の理論や概念枠組みを用いて分析し、考察しようとする態度で臨んでもらいたい。さらには、授業で示した理論や概念を、自分自身の研究課題をみつけるためにも役立ててもらいたい。

質問等は、原則としてその授業の終了直後かオフィスアワーで対応するが、授業中でも遠慮せずに尋ねてもらってかまわない。オフィスアワーについては、授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. イントロダクション
2. 個人化とは
3. モダニティ・ポストモダニティにおける個人化
4. 現代人のリスク意識と自己責任意識
5. 高度情報化社会におけるメディア利用
6. コミュニケーションの変容
7. インターネットの落とし穴
8. 個人化の諸局面・小テスト
9. 消費社会における個人
10. 「人並み」から「個性」へ
11. 「消費者」の誕生
12. 参加とは
13. 現代の社会参加の状況
14. 「つながり」の2つのタイプ
15. 信頼と「お互い様」意識の醸成のために

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

ほぼ毎回の授業でプリントを配付する。授業後は、ノートやプリントを読み直して知識を確実なものにしていくとともに、授業で取り上げた事例以外にも社会学や社会心理学の理論・概念を適用して同様に説明できる現象があるのではないかと、授業とは異なる解釈ができるのではないかと、自ら考える姿勢を大切にしてもらいたい。授業を振り返り、ノートをまとめるための時間として、毎回、1～2時間程度の復習を求める。授業中に紹介する参考図書等も積極的に読んでほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

講義時間中に随時紹介する。

三上剛史『社会の思考——リスクと監視と個人化——』（学文社）や、『社会学事典』（丸善）の「新たな転回」の各項目などが、概念理解の助けになる。

## 社会調査実習 [a]

〔担 当 者〕 二階堂 裕子  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 実習 〔単位〕 4  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-3000-o4

## ●本授業の概要：

本実習では、「公民館の活動をめぐる現状と課題」を研究テーマとして設定し、社会教育活動に対する現代社会のニーズ、公民館の運営や事業の状況、地域団体・学校・企業・NPO などとの連携、および地域社会における公民館の役割などについて、質的調査を実施する。

データの分析を通じて、現代における社会情勢の変化により生じた地域課題を明らかにしたうえで、社会教育の実践の場として、公民館にはどのような可能性や課題があるのかを多面的に検討するとともに、持続可能な地域社会の実現に寄与する公民館活動の条件について考察する。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②社会調査の企画・設計から、調査の実施、データ分析に至るまでを実行できる。
- ③分析の結果を論理的な文章で表現できる。

## ●成績評価の基準：

平常点（プレゼンテーションの内容、議論や調査への参加状況、共同研究に対する貢献度）：70%（到達目標①②）  
 調査報告書のレポート：30%（到達目標①③）

## ●留意事項：

- ・2年次終了までに、社会調査関連5科目（社会調査論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、社会統計学Ⅰ・Ⅱ）のうち、2科目以上単位取得していることを、本実習の履修要件とする。
- ・オフィスアワーは、授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. ガイダンス
- 2～5. 社会教育と公民館に関する先行研究のレビュー
- 6～7. 具体的な調査テーマの設定、仮説の構成
- 8～9. 調査対象の選定
- 10～12. 調査対象に関する基礎的データの収集と検討
13. 公民館での予備的調査
14. 具体的な調査項目の設定、調査への協力依頼
15. 調査実施のためのガイダンス
16. 調査の結果報告
- 17～18. データの整理
- 19～20. データの分析
- 21～22. データのコーディング作業
- 23～24. 担当テーマの決定とデータにもとづく考察
- 25～28. 考察結果の発表
- 29～30. 調査報告書の作成、実習の総括

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）

- ・1期は、先行研究の検討、テーマの設定、調査の企画を進めるにあたり、指示される作業を行ったうえで、プレゼンテーション用のレジュメを作成する（毎回3時間程度）。
- ・2期の前半では、調査によって収集したデータとそれらの分析結果を報告するにあたり、指示される作業を行ったうえで、プレゼンテーション用のレジュメを作成する。さらに後半では、調査報告書のレポート作成に取り組む（毎回3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

『よくわかる質的社会調査 技法編』谷富夫・芦田徹郎編著（ミネルヴァ書房、2009年）は、適宜、各自が用意する。その他、授業中に研究テーマに関連する文献を紹介するとともに、必要に応じて資料を配布する。

## 社会調査実習 [b]

〔担 当 者〕 二階堂 裕子  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 実習 〔単位〕 4  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-3000-o4

## ●本授業の概要：

本実習では、「公民館の活動をめぐる現状と課題」を研究テーマとして設定し、社会教育活動に対する現代社会のニーズ、公民館の運営や事業の状況、地域団体・学校・企業・NPO などとの連携、および地域社会における公民館の役割などについて、質的調査を実施する。

データの分析を通じて、現代における社会情勢の変化により生じた地域課題を明らかにしたうえで、社会教育の実践の場として、公民館にはどのような可能性や課題があるのかを多面的に検討するとともに、持続可能な地域社会の実現に寄与する公民館活動の条件について考察する。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②社会調査の企画・設計から、調査の実施、データ分析に至るまでを実行できる。
- ③分析の結果を論理的な文章で表現できる。

## ●成績評価の基準：

平常点（プレゼンテーションの内容、議論や調査への参加状況、共同研究に対する貢献度）：70%（到達目標①②）  
 調査報告書のレポート：30%（到達目標①③）

## ●留意事項：

- ・2年次終了までに、社会調査関連5科目（社会調査論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、社会統計学Ⅰ・Ⅱ）のうち、2科目以上単位取得していることを、本実習の履修要件とする。
- ・オフィスアワーは、授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. ガイダンス
- 2～5. 社会教育と公民館に関する先行研究のレビュー
- 6～7. 具体的な調査テーマの設定、仮説の構成
- 8～9. 調査対象の選定
- 10～12. 調査対象に関する基礎的データの収集と検討
13. 公民館での予備的調査
14. 具体的な調査項目の設定、調査への協力依頼
15. 調査実施のためのガイダンス
16. 調査の結果報告
- 17～18. データの整理
- 19～20. データの分析
- 21～22. データのコーディング作業
- 23～24. 担当テーマの決定とデータにもとづく考察
- 25～28. 考察結果の発表
- 29～30. 調査報告書の作成、実習の総括

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- （予習）
- ・1期は、先行研究の検討、テーマの設定、調査の企画を進めるにあたり、指示される作業を行ったうえで、プレゼンテーション用のレジュメを作成する（毎回3時間程度）。
  - ・2期の前半では、調査によって収集したデータとそれらの分析結果を報告するにあたり、指示される作業を行ったうえで、プレゼンテーション用のレジュメを作成する。さらに後半では、調査報告書のレポート作成に取り組む（毎回3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

『よくわかる質的社会調査 技法編』 谷富夫・芦田徹郎編著（ミネルヴァ書房、2009年）は、適宜、各自が用意する。その他、授業中に研究テーマに関連する文献を紹介するとともに、必要に応じて資料を配布する。

## 社会史原論

〔担 当 者〕 轟木 広太郎  
 〔開 講 期〕 2期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-1200-o2

## ●本授業の概要：

社会史とは何か、歴史学研究とは何か、それらは一体何をめざすもののかについて、ヨーロッパ社会史を対象として講義する。前半は、代表的なテーマを二つ取り上げて、社会史の実例を詳細に示し、後半は、ヨーロッパ社会史を20世紀前半から牽引してきたフランスのアナール学派について紹介する。高校までの教科書で学習した歴史ではふれることの少ない歴史の多様さと深さを考える。

## ●到達目標：

- ①社会史研究とはいかなるもののかについて、テーマの多様性と方法論の基礎を身につける。
- ②高等学校までに学んできた歴史とのつながりがある相違点を理解することができる。
- ③社会史研究のこれまでの流れ（研究史）についての基礎的な知見を獲得する。

## ●成績評価の基準：

平常点（15%）（到達目標①②③）とレポート（85%）（到達目標①②③）による総合評価。

## ●留意事項：

オフィスアワーは授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. イタリア・ルネサンスの社会史；芸術家とは？
2. イタリア・ルネサンスの社会史；公的パトロン
3. イタリア・ルネサンスの社会史；私的パトロン
4. イタリア・ルネサンスの社会史；芸術家の世界
5. 古代ローマの「パンとサーカス」；「パン」
6. 古代ローマの「パンとサーカス」；「サーカス」
7. 古代ローマの「パンとサーカス」；政治と食料・娯楽
8. 古代ローマの「パンとサーカス」；死後の栄光
9. アナール学派の歴史家；そのはじまりと展開
10. アナール学派の歴史家；リュシアン・フェーヴル
11. アナール学派の歴史家；マルク・ブロック
12. アナール学派の歴史家；フェルナン・ブローデル
13. アナール学派の歴史家；数量史の隆盛
14. アナール学派の歴史家；フィリップ・アリエス
15. アナール学派の歴史家；アラン・コルバン

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回配布するプリントには、さまざまな文書資料や図像資料が含まれている。事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業で用いる資料は随時プリントして配付する。



## 日本社会史Ⅰ

〔担当 者〕西尾 和美  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

本授業の目的は、日本社会の原始・古代から中世までの歴史を中心に、中学・高校までの日本史では学習することの少なかった諸問題に、史料を通して目を向けることにある。前半では、女性の地位や労働を含めて、原始・古代社会の全体像を理解する。後半では、中世社会像を武士のイメージに限定せず、中世社会のしくみと暴力・武力・戦争との深い関わりを理解する。また諸災害にも目を向け、時代を生きた人々のつながりと知恵や行動を知る。なお、前半・後半ともに、講義は、前後の時代、近現代社会との比較にも言及しつつ行う。

## ●到達目標：

- ①日本社会の原始・古代、中世の史料を読むことができる。
- ②日本社会の原始・古代の歴史について、女性を含めた全体像を説明できる。
- ③日本社会の中世の歴史について、武士にとどまらない全体像を説明できる。
- ④歴史と現代を比較し、自分の考えを述べることができる。

## ●成績評価の基準：

中間試験50%（到達目標①②④）  
期末レポート50%（到達目標①③④）

## ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する。  
質疑応答は、原則として毎時間のリアクションペーパーおよび小括・総括の時間を利用して行うが、随時、各授業の前後など、可能な限りそれ以外でも対応する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 「日本史」とその時代区分
  2. 古代支配者とジェンダー
  3. 古代王権とジェンダー
  4. 中継ぎ女帝論の再検討
  5. 古代の女性労働と生活
  6. 平安王朝とジェンダー
  7. 小括・中間試験
  8. 中世社会と暴力・戦争
  9. 中世前期社会と公家・武家・寺社
  10. 中世後期社会と公家・武家・寺社
  11. 中世の戦争と地域社会
  12. 中世社会と死傷・障がい、平和
  13. 中世社会と諸災害
  14. 中世社会を生きた知恵と行動
  15. 総括
- 期末レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）授業で取り上げることがらについて事前に調べて、予備知識をもって授業にのぞむこと。1時間程度。  
（復習）授業後は配付プリントやノートにより復習し、知識を自分のものにするとともに、授業内で紹介する参考文献も積極的に読んで、主体的に関心を育てること。2時間程度。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
特定のテキストは使用しない。プリントを配付する。参考文献は随時、紹介する。

## 日本社会史Ⅱ

〔担当 者〕藤實 久美子  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

日本の政治・経済、人びとの生活の歴史について、新たな知識を獲得する。また、既知の歴史事象に関する新しい解釈に接し、ともに考えることを目的とする。1・2では古代・中世社会の特徴を復習しつつ、「時代区分」の諸指標について学習する。3～13では一まとまりの時代と考えられる織田・豊臣・徳川政権期（近世）の社会の特徴を理解する。14・15では明治以降の日本社会の変容について学び、現代社会が抱える諸問題を歴史的経緯から考えて、解決する糸口を見いだす。

## ●到達目標：

- ①日本史の大きな流れを理解するために必要な基礎知識を整理し、これに新たに得た知識を加えて再構成して、説明することができる。
- ②これまでに学んできたものとは異なる歴史事象の解釈に接し、教員の説明は妥当であるかについて、自ら判断することができる。
- ③江戸時代に作成された史料を公正な態度で読み、内容・要点をまとめ、過不足なく手際よく説明することができる。
- ④現代社会の諸問題について、歴史的経緯から考え、自ら課題を設定することができる。

## ●成績評価の基準：

小テスト 40%（到達目標①②③）  
定期試験 50%（到達目標②③④）  
リアクション・ペーパー 10%（到達目標①②）

## ●留意事項：

- ・リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。
- ・疑問点にはその授業の終了直後に対応する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 時代を区分する (1)―古代～平安―
- 2 時代を区分する (2)―鎌倉～室町―
- 3 15世紀末～16世紀の社会・金・銀山の開発
- 4 豊臣秀吉の朝鮮侵略と東アジア
- 5 豊臣検地と常備軍―兵農分離の実態―
- 6 豊臣氏の滅亡と徳川の天下
- 7 小括と小テスト
- 8 武家諸法度と徳川の支配―武家意識の転換―
- 9 徳川日本の新秩序―大名260余家の序列―
- 10 江戸城の諸空間と機能
- 11 幕藩体制下の村と村びと
- 12 寛政改革・天保改革と社会変容
- 13 開国と徳川日本の解体過程
- 14 幕末の動乱および明治国家の成立
- 15 19・20世紀の戦争と日本
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）第1回の授業時に、高等学校用教科書『日本史』Bの一部をコピーして、配布する。第2回以降は、該当する箇所をよく読んでから、授業に臨むこと（毎回1時間程度）。  
（復習）毎回の授業で配布するプリントの読み直しによって、理解を深める（毎回2時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

テキストは第1回授業時にコピーして配布する。また毎回、教材を配布する。

＜必携書＞  
なし

＜参考書等＞  
なし

## アジア社会史Ⅰ

〔担 当 者〕 鈴木 真  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

古代～近代における中国社会・文化の特徴を理解するために、代表的な官僚選抜・任用制度であった「科挙」をとりあげ、儒教や士大夫の世界を中心に講義する。

## ●到達目標：

- ①古代～近代における中国の漢人社会を生きた人々が、どのような社会のしくみの中で、どのような文化を営んでいたのか、専門用語を用いて説明できる。
- ②上記の内容を、科挙や宗族などを事例として具体的に説明できる。

## ●成績評価の基準：

- ・小テスト・レポート：10%（到達目標①②）
- ・期末試験：90%（到達目標①②）

## ●留意事項：

成績評価、および出欠・遅刻の管理は厳格におこなう。  
 期末試験は、長文の論述形式でおこなう（持込不可）。  
 また、学期中にレポートを課す場合がある。  
 オフィスアワー 火曜日 9,10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 中国社会における王朝と民衆とのかかわり
2. 県と郷村
3. 中国における官僚登用の歴史（1）——漢
4. 中国における官僚登用の歴史（2）——魏晉
5. 中国における官僚登用の歴史（3）——隋唐
6. 中国における官僚登用の歴史（4）——宋
7. 科挙合格と官僚任官による社会的成功
8. 士大夫の理念
9. 民衆と胥吏と官僚
10. 科挙合格までの長い道のり
11. 科挙の盛行と宗族の発展
12. 宗祠・族譜・義荘
13. 科挙と移住
14. 科挙の廃止と近代中国
15. 科挙は近現代の中国社会に何をもたらしたか
16. 期末試験（長文論述形式）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回資料プリントを配付するので、講義の前後に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。また関係する書籍を読み、理解を深めておくこと（毎回3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

必要に応じて講義中にプリントを配付する。  
 参考文献は講義中に適宜紹介する。

## アジア社会史Ⅱ

〔担 当 者〕 鈴木 真  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

現代中国の基礎となった清朝（1636～1912）の歴史、およびその支配民族である満洲人の社会について講義する。

## ●到達目標：

- ①漢人の社会・文化とは異なる世界をもちながら、現代中国にもその文化的影響を深く残す満洲人の社会について説明できる。
- ②広大な領域を有し、多民族によって構成される現代中国が、どのような歴史的経緯によって形成されたのかを説明できる。

## ●成績評価の基準：

- ・小テスト・レポート：10%（到達目標①②）
- ・期末試験：90%（到達目標①②）

## ●留意事項：

成績評価、および出欠・遅刻の管理は厳格におこなう。  
 期末試験は、長文の論述形式でおこなう（持込不可）。  
 また、学期中にレポートを課す場合がある。  
 オフィスアワー 火曜日 9,10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 清朝と現代中国
2. 北アジアにおける部族制社会
3. 女真人の社会
4. 明末の中国東北地方における満洲人
5. 満洲人の社会組織と文化
6. 八旗と満洲文字
7. 明清交替と『韃靼漂流記』
8. 清朝による漢人社会の統治（1）——辮髪と科挙
9. 清朝による漢人社会の統治（2）——南巡と文字の獄
10. モンゴルの歴史
11. モンゴルとチベット仏教
12. チベットの歴史
13. 清朝とチベット仏教
14. 東トルキスタンと「新疆」
15. まとめ
16. 期末試験（長文論述形式）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回資料プリントを配付するので、講義の前後に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。また関係する書籍を読み、理解を深めておくこと（毎回3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

必要に応じて講義中にプリントを配付する。  
 参考文献は講義中に適宜紹介する。

## ヨーロッパ社会史Ⅰ

〔担当 者〕 轟木 広太郎  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

古代から現代にかけて、ヨーロッパ社会史のさまざまなテーマを取り上げる。前半から中盤にかけては、古代から現代にいたるまで時代別に固有のテーマを設定するが、後半は、アナール学派の代表的歴史家のある研究を詳細に紹介するという形式で進める。

## ●到達目標：

- ①ヨーロッパ社会史のテーマの広がり与方法について多角的な知見を得る。  
 ②文書や図像の資料を歴史的な脈絡に即して読解することができる。

## ●成績評価の基準：

平常点（15％）（到達目標①②）と試験（85％）（到達目標①②）による総合評価。ただし、受講者が少ない場合には、試験をレポートに変更する可能性もある。

## ●留意事項：

オフィスアワーは授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 古代地中海世界の社会史；解放奴隷から見るローマ
2. 中世の社会史；聖遺物崇敬
3. 中世の社会史；修道生活
4. 中世の社会史；騎士文化
5. 中世の社会史；都市
6. アンシャンレジームの社会史；近世における国王儀礼
7. アンシャンレジームの社会史；ガリカニズムのもとでのカトリック教会
8. フランス革命の社会史；非キリスト教化
9. フランス革命の社会史；習俗の革命
10. 近現代のバイオ・ポリティクス；優生学・優生政策
11. 近現代のバイオ・ポリティクス；ナチス・ドイツの場合
12. アリエスの「死の社会史」；中世
13. アリエスの「死の社会史」；近世
14. アリエスの「死の社会史」；近代
15. アリエスの「死の社会史」；現代
16. 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回配布するプリントには、さまざまな文書資料や図像資料が含まれている。事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

毎回の授業でプリントを配布する。

## ヨーロッパ社会史Ⅱ

〔担当 者〕 轟木 広太郎  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

社会史にはさまざまなテーマが存在しうが、本授業ではヨーロッパ史における「罪（犯罪）と罰（刑罰）」を取り上げ、千数百年の間にヨーロッパ社会における正義と悪の問題がどのように移り変わってきたのかについて考察する。なお、前半は宗教の世界、後半は世俗の世界に焦点を当てる。

## ●到達目標：

- ①ヨーロッパ社会史の特定のテーマを研究することを通じて、実践的な方法論と具体的な知見を習得する。  
 ②文書や図像の資料を歴史的な脈絡に即して読解することができる。

## ●成績評価の基準：

平常点（15％）と試験（85％）による総合評価。ただし、受講者が少ない場合には、試験をレポートに変更する可能性もある。

## ●留意事項：

オフィスアワーは授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 聖なる世界における罪と罰
2. 初期キリスト教における罪と罰；公の贖罪
3. 中世初期における罪と罰；私的贖罪
4. 中世後期における罪と罰；告解
5. 近世における罪と罰；告解の変容
6. あの世への旅
7. 近世における罪と罰；魔女裁判と悪魔学論争
8. 中世における犯罪と刑罰；神の裁き
9. 中世における犯罪と刑罰；戦争と平和
10. 近世における犯罪と刑罰；身体刑
11. 近世における犯罪と刑罰；取り調べから刑場まで
12. 18世紀の司法改革
13. 近現代における犯罪と刑罰；監獄刑
14. 近現代における犯罪と刑罰；一望監視システム
15. 近現代における犯罪と刑罰；犯罪者とは誰か？
16. 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回配布するプリントには、さまざまな文書資料や図像資料が含まれている。事前に目を通し、授業の概要について、漠然とでかまわないのでイメージを描くようにしてほしい。また、その日の内容に関連する事項については、教員の指示する参考文献などを参照して、自分の関心を深めていくことが求められる（合わせて毎回1時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

毎回の授業でプリントを配布する。

## 地域社会史

〔担 当 者〕 久野 修義  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

中世の成立期から中世末までに、岡山地域でおこった様々な出来事を取りあげ、それらはこれまでどのように理解されてきたか、を紹介しながら、岡山地域の歴史的特質を様々な史料をもとに考える。そして、これらの事を通して地域の歴史についての新たな見方を修得していく。

## ●到達目標：

歴史的な理解を深めることによって、現代の日本社会や自分たちもっている「地元」認識を改めて相対化し、そのことによって現代日本の社会や文化について豊かな見方ができるような力量を身につける。

## ●成績評価の基準：

授業のレスポンスペーパー提出： 30%  
 調査レポート： 30%  
 期末試験： 40%

## ●留意事項：

日常生活において、身近なところにある「歴史の痕跡」に注意を払うこと。地域にある博物館や資料館に実際に足を運んでみる。なお毎回配布する出席カードには必ず質問や感想を記載してもらう。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 オリエンテーション・はじめに
- 2 時代区分と地域社会史
- 3 日本中世はどんな時代か
- 4 岡山地域史研究のあゆみ (1) 戦前
- 5 岡山地域史研究のあゆみ (2) 戦後
- 6 『平家物語』の時代 (1) 岡山地域と平家
- 7 『平家物語』の時代 (2) 妹尾兼康と藤戸合戦
- 8 鎌倉時代の宗教と社会 (1)
- 9 鎌倉時代の宗教と社会 (2) 「法然聖人絵伝」を中心に
- 10 荘園制の時代と地域社会
- 11 岡山の荘園と公領 (1) 初期荘園から平安期
- 12 岡山の荘園と公領 (2) 足守荘、鹿田荘など
- 13 中世の戦争と岡山地域
- 14 乱世から太平へ
- 15 まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

調査レポートの性格や作成上の注意点については、毎回の授業で参考になるような情報を提供するので、必ず、それらを自分自身で確認してレポート作成に役立てるようにしてほしい。また、毎回の授業ごとに内容要約や疑問に関するレスポンスペーパーを提出してもらおうが、けっしてそれが空疎で形式的なものにならぬように積極的な受講が大切である。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 宗教社会史

〔担 当 者〕 尾崎 秀夫  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

ローマ皇帝の対キリスト教政策を検討する。通説ではローマ皇帝はネロからディオクレティアヌスに至るまでキリスト教徒を厳しく迫害し続けたとされる。しかし、近年の研究では、迫害を命じた皇帝はごく少数であり、皇帝による迫害が行われた期間も非常に短かったことが明らかとなっている。では、彼らはいかなるキリスト教政策を採ったのか。ローマ帝国におけるキリスト教迫害とはいかなるものであったのか。また、当時のキリスト教徒はどのように暮らしていたのか。これらの問題を考察することによって、通説を検討・批判して新たな歴史像を描いていくという歴史学の営みを学ぶ。

## ●到達目標：

社会と宗教の関係について学ぶとともに、歴史学とはどのような学問なのか、ということを知る。すなわち、歴史とは決して過去の事実を記憶する学問ではなく、通説を再検討、批判し新しい歴史像を描こうとするものである。

## ●成績評価の基準：

受講生数にもよるが、出席と授業への参加状況50%、レポート50%。受講生が少ない場合には試験をレポートに変更することもある。

## ●留意事項：

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. イントロダクション
2. ローマの歴史（イタリア半島統一まで）
3. ローマの歴史（帝国成立まで）
4. ユダヤ人の歴史（イエスの誕生まで）
5. ネロの迫害（ネロの生涯と史料）
6. ネロの迫害（タキトゥス、スエトニウスを中心に検討）
7. ドミティアヌスの迫害
8. 小プリニウスとトラヤヌスの勅令
9. 1～2世紀のローマ帝国におけるキリスト教迫害の実態
10. 軍人皇帝時代
11. デキウス帝とヴァレリアヌス帝の迫害
12. ガリエヌスの平和令
13. デイオクレティアヌス帝の迫害（その実態）
14. デイオクレティアヌス帝の迫害（原因について）
15. コンスタンティヌス帝による公認

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業開始以前に高校の世界史の教科書のローマ帝国にかんする部分を読んでおくこと。

毎日、授業内容を、通説との違いを確認しながら復習すること。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

弓削達『ローマ帝国とキリスト教』、1989年、河出書房新社など。

他は、講義で紹介する。

講義ではパワー・ポイントを使用する。



## 女性史

〔担 当 者〕 沢山 美果子  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

この講義では、男と女の間を規定しているジェンダーの視点から、近世を中心に、近現代への長い時間軸のなかで、男と女の間について考える。その際、とくに男と女の間関係性のなかにある性と生殖や、女の身体、子どものいのちをめぐる問題に焦点をあてる。

なお主体的に講義に取り組むために、毎回の講義終了時に感想、意見、質問などを提出する。

## ●到達目標：

人々の歴史的営みを、ジェンダーの視点から、人々がいのちを繋いできた営みとして考察することで、女、男、子どもの関係性や子どものいのちを繋ぐ営みが歴史的に変化していることについての理解を深める。また 自分自身の中にある女らしさや男らしさ、性役割、男と女の間関係をめぐる「当たり前」や「常識」を問い直し、現代社会における男と女の間を考えるとともに、自分自身のこれからの課題を探る。

## ●成績評価の基準：

出席：毎回授業の際に感想、意見、質問などを提出 50%  
中間レポート「35歳のわたし」を提出 5%  
最終レポート（指定図書を読み、参考文献も参考しつつレポートを書く。レポート枚数、様式などは授業の中で指示）45%

## ●留意事項：

受身ではなく、自ら問いを持って学び考えるプロセスを大事にして講義を受講すること。毎回の講義時に感想や疑問を書いた感想用紙を提出してもらうので、そのことで講義をふりかえり自分の考えをまとめ、自分自身の問いを育てる機会にすること。また講義の内容を理解するために、指定図書や参考文献をはじめ関連する本を読み考えること。講義の際には、史料を提示し史料読解も行うので、そのことにも留意して受講すること。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. はじめに—ジェンダーの視点で歴史をみる
2. 女たちの声を聴く—史料読解の試み
3. 史料の中の性—女と男の性の現場
4. 江戸時代の夫婦と性
5. 交わること、孕むことへの期待と不安
6. 女と男の産の現場
7. 産むこと、産まないことの選択
8. 女の性と家・遊所
9. 売られる娘・身売る女
10. 生きることと性
11. 近代のセクシュアリティ
12. 近代家族と主婦の誕生
13. 近代家族における女・男・子ども
14. 「35歳のわたしからみえるもの
15. おわりに—女と男のいま

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で、講義に関連した参考文献を紹介する。参考文献は図書館に配架してあるので、それらを参考に理解を深めてほしい。最終レポートは、文献を理解し、また講義の中で自分自身が見出した問いに即して書評することを求めるものなので、関連文献を読み毎回の講義を理解するだけでなく、自分自身の興味関心のあるテーマを見つけ、最終レポートにつなげてほしい。

## 【必携書（教科書販売）】

『江戸の乳と子ども—いのちをつなぐ』、沢山 美果子、吉川弘文館

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞

講義時には、毎回資料を配布するほか、講義ごとに参考文献を紹介し、参考図書については図書館に配架する。参考図書：沢山美果子『江戸の捨て子たち その肖像』吉川弘文館、同『近代家族と子育て』、吉川弘文館など。

## 考古学 I

〔担 当 者〕 紺谷 亮一  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

考古学の方法論についての基礎的知識の習得を図る。土器、石器、遺構、人骨、植物遺存体、動物骨の見方、放射性炭素年代測定法について学ぶ。考古学は基本的にモノの分析を通して、当時の社会復元を目指すことを理解する。そして発掘調査による、具体的なデータ蓄積、資料操作なしに、考古学的進歩が無いことを明らかにする。

## ●到達目標：

- ①考古学についての基本的な方法論を理解し、説明することができる
- ②考古学データを活用し、その意味について論じることができる

## ●成績評価の基準：

小テスト 50%（到達目標①②）  
定期試験 50%（到達目標①②）

## ●留意事項：

国内外の考古学のニュース・文献等に関心を持つよう心がけること。  
オフィスアワー 授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

大塚遺跡（横浜市教育委員会）、小田原城（小田原市教育委員会）等の国内の発掘調査に参加した経験から、日本考古学のあり方を多角的に取り上げ、将来的な考古学研究視座を実証していく。そして、学生に具体的に創造的な思考力の発展を促す。

## ●授業予定一覧：

- 1 講義概要
- 2 考古資料とは何か
- 3 考古資料の見方
- 4 考古学の年代
- 5 考古学データの扱い方
- 6 考古学と民族学・民俗学
- 7 文献資料と考古資料
- 8 日本考古学の起源
- 9 魏志倭人伝とは何か
- 10 魏志倭人伝の内容考察
- 11 魏志倭人伝の考古学的評価
- 12 発掘調査とは
- 13 発掘調査の方法と意義
- 14 考古学とマスコミ
- 15 総括
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。

（復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。

自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。

## 【必携書（教科書販売）】

『魏志倭人伝の考古学』、佐原真著、（岩波現代文庫、2003年）  
『考古学への案内』、金閨恕、春成秀爾編、岩波書店

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

考古学Ⅱ

〔担 当 者〕 紺谷 亮一  
〔開 講 期〕 2 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

●本授業の概要：

オリент考古学についての基礎的知識の習得を図る。農耕の開始、都市の出現、文字の発明、交易網の整備等、人類史の主な出来事が、オリентの地でおこったことを学ぶ。オリентでの発掘調査の方法論の独自性を理解する。その一方で、日本考古学との相違点について理解する。そして、流動的な現代中東世界を理解するうえで、オリент考古学の果たす役割について学ぶ。

●到達目標：

- ①オリент考古学についての基本的な方法論を理解し、説明することができる
- ②オリент考古学のデータを活用し、その意味について論じることができる

●成績評価の基準：

小テスト 50%（到達目標①②）  
定期試験 50%（到達目標①②）

●留意事項：

国内外の考古学のニュース・文献等に関心を持つよう心がけること。  
オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

トルコ共和国キュルテペ遺跡（世界遺産暫定リスト登録）の発掘調査およびその研究成果をもとに、オリент考古学のあり方を多角的に取り上げ、将来的な考古学研究視座を実証していく。そして、学生に具体的で創造的な思考力の発展を促す。

●授業予定一覧：

- 1 講義概要
- 2 古代オリントの地理学的概念
- 3 新石器（農耕）革命
- 4 都市革命
- 5 文字の発明
- 6 交易の時代・青銅器の出現
- 7 帝国と鉄器の出現
- 8 オリントの発掘史1
- 9 オリントの発掘史2
- 10 オリントの遺跡1（ヒッタイト帝国の首都ハットゥシャ）
- 11 オリントの遺跡2（ホメロスの伝説都市トロイ）
- 12 オリントの遺跡3（アッシリア王の都ニルムド）
- 13 トルコにおける考古学調査
- 14 オリント考古学に携わった人々（アラビアのロレンス、アガサ・クリスティ等）
- 15 総括
- 16 定期試験（筆記試験）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。  
（復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。  
自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。

【必携書（教科書販売）】

『西アジア考古学講義ノート』、西アジア考古学講義ノート編集委員会、西アジア考古学会、2013年  
『人類の起源と古代オリント』、大貫良夫他著、（中央公論社、1998年）

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

民俗学Ⅰ

〔担 当 者〕 小嶋 博巳  
〔開 講 期〕 1 期  
〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

●本授業の概要：

日本民俗学がもっとも重要な研究対象としてきた民俗宗教（民間信仰）について、各地の具体的な事象をとりあげながら、その基本的な性格を考察する。霊魂観・他界観・神観念の問題を中心に扱う。

●到達目標：

- ①日本人の生活に組み込まれている超自然的存在・世界との種々の関わりを、民俗宗教として認識できる。
- ②さまざまな民俗事象・生活事象を、日本民俗学をはじめとする民俗宗教研究の成果に立って説明できる。

●成績評価の基準：

小テスト：20%（到達目標①②）  
定期試験：80%（到達目標①②）

●留意事項：

オフィスアワーは月曜日3・4時限とする。もとより、在室の限りは随時、質問・相談に応じる。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1. 民俗宗教という概念
- 2. 霊魂の観念
- 3. 「他界」というイメージ
- 4. 山の他界
- 5. 海の他界
- 6. 訪れる神たち
- 7. 民俗的他界観と仏教思想
- 8. ホトケからカミへ——祖霊信仰論——
- 9. 盆と正月
- 10. 一年両天性説
- 11. 祖霊信仰論批判
- 12. 「浮かばれない」死者たち——御霊信仰論——
- 13. 日本史上の御霊信仰
- 14. 民俗社会の御霊信仰
- 15. まとめ——日本人の神観念——  
定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の講義で、考えながら、注意深くノートをとることを求める。その上で、講義の要点を復習し、とくに興味をもった点は紹介された参考文献を読むなどして、理解を深めていってほしい。疑問点は積極的に質問することを期待する。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
教科書は使用しない。しばしば資料プリントを配布する。

<参考書等>  
必要に応じて講義中に紹介する。

## 社会史特講Ⅱ

〔担 当 者〕藤 實 久美子  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

日本における本屋業の始まりから、その後の展開について、文献・画像史料を通して学ぶ。中心となる史料は、江戸時代の実用書であった武鑑（ぶかん）とする。授業を通して、新たな知識と史料を読み解く技術を体得し、かつ考える力を向上させ、新たな課題を見いだすことを目的とする。1では古代・中世社会の書籍文化について学習する。2では近世初期における商業出版の始まりについて知識を得る。3～7では近世前期に出版された武鑑を観察する。これによって、書誌学的な技術を体得する。8ではそれまでの学習を振り返る。9～14では板元間の争いとその決着に関する複数の史料を読む。これによって史料を読み解く技術を高める。15では明治以降の書籍文化の変容の過程をたどり、現代社会を捉えなおす。

## ●到達目標：

- ①これまでに学んできた知識を整理し、これに新たに得た知識を加えて再構成して、説明することができる。
- ②江戸社会に出版された書籍を書誌学的に理解する技術を体得し、応用することができる。
- ③江戸時代に作成された史料を読み、内容・要点をまとめて、過不足なく手際よく説明することができる。
- ④現代社会におけるメディアが抱える諸問題について、歴史的経緯から考え、自ら課題を設定することができる。

## ●成績評価の基準：

- 小テスト 40%（到達目標②③）  
 定期試験 50%（到達目標②③④）  
 リアクション・ペーパー 10%（到達目標①）

## ●留意事項：

- ・リアクション・ペーパー等を活用して積極的に質問してもらいたい。
- ・疑問点にはその授業の終了直後に対応する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 書籍文化研究の流れと可能性
- 2 町衆文化―芸術品としての書籍―から商業出版へ
- 3 社会を映す武鑑と板元の工房
- 4 書籍コレクションと幕府の公的な史料―武鑑を探る方法
- 5 武鑑出版の始まり
- 6 板元たちの工夫
- 7 板元たちの工夫（続き）
- 8 小括と小テスト
- 9 文化の流れ―京都から江戸へ
- 10 享保出版取締令とその影響
- 11 武鑑出版と板元須原屋茂兵衛
- 12 出版競争の始まり―宝暦の相論
- 13 出版競争の展開―安永期の争い
- 14 板元出雲寺の戦略
- 15 幕末維新と武鑑出版
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）第3回以降は、テキスト該当箇所をよく読んでから、授業に臨むこと（毎回1時間程度）。  
 （復習）毎回の授業で配布するプリントとテキストを読み直して、理解を深める（毎回2時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

江戸の武家名鑑―武鑑と出版競争―、藤實久美子、吉川弘文館

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 なし

## 社会史特講Ⅲ

〔担 当 者〕紺 谷 亮一  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

西アジア（主にトルコ）の風土と文化について認識を深める。この地でビザンツ帝国、オスマン帝国等のキリスト教世界とイスラム世界が融合し合ったことを理解する。また、今日の西アジア世界を単に「イスラムの価値観」によって、判断することの危うさを理解する。また、トルコ共和国を題材に、移民、難民、宗教問題等を考えるうえで、ヨーロッパが西アジアと相互依存の関係にあることを学ぶ。

## ●到達目標：

- ①キリスト教世界とイスラム教世界の基本的な価値観を理解し、説明することができる
- ②今日のヨーロッパ世界の繁栄が、西アジア世界の盛衰と深くかかわっていることを、諸データを活用し、その意味について論じることができる

## ●成績評価の基準：

- 小テスト 50%（到達目標①②）  
 定期試験 50%（到達目標①②）

## ●留意事項：

西アジアのニュース・文献等に関心を持つよう心がけること。  
 オフィスアワー 授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

トルコ共和国アンカラ大学への留学経験を活かし、今日の西アジアの現状を多角的に取り上げ、将来的な国際関係学的視座を実証していく。そして、学生に具体的に創造的な思考力の発展を促す。

## ●授業予定一覧：

- 1 西アジアの文化地理的位置づけ
- 2 西アジアの風土
- 3 西アジアの衣装―衣装に隠された歴史―
- 4 西アジアの織物―絨毯とキリム―
- 5 西アジアの食事1―コーヒー文化史―
- 6 西アジアの食事2―ウシ、ブタ、ヒツジ、トリ―
- 7 トルコ語入門1―文法の文化史―
- 8 トルコ語入門2―日常会話―
- 9 トルコの音楽―軍楽隊とトルコ行進曲―
- 10 西アジアの現代政治―EU、トルコ、アラブ―
- 11 西アジアの宗教  
―三大宗教（ユダヤ、キリスト、イスラム）の大地―
- 12 西アジアと古代日本―シルクロードは幻影か？―
- 13 西アジアと日本人―西アジアに憧れる日本人―
- 14 西アジア旅行ガイド―君も旅だとう！―
- 15 総括
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）次週に予定されているテーマに関して、テキストの該当部分を熟読し、関連する話題をまとめておくこと。  
 （復習）毎回の授業内容と、事前に調べた資料を照らし合わせ、授業前後での理解や認識、興味関心を振り返る。  
 自主学習に関しては、各回2時間程度が望ましい。

## 【必携書（教科書販売）】

『地球の歩き方：イスタンブールとトルコの大地』、ダイヤモンド社

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 社会史特講Ⅳ

〔担 当 者〕鈴木 真  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

中国の歴代王朝のうち、とくに明清時代の皇帝と宮廷に関する諸事象をキーワードとして、それらを儒教の宗教的側面と関連させて講義する。

## ●到達目標：

- ①中国史における皇帝政治や皇宮、宮廷文化について、専門的用語を用いて説明できる。  
 ②中国史の宮廷文化について、他の文化圏との相対化をおこない、その特徴を説明できる。

## ●成績評価の基準：

- ・小テスト・レポート：10%（到達目標①②）
- ・期末テスト：90%（到達目標①②）

## ●留意事項：

成績評価、および出欠・遅刻の管理は厳格におこなう。  
 期末試験は、長文の論述形式でおこなう（持込不可）。  
 また、学期中にレポートを課す場合がある。  
 オフィスアワー 火曜日 9,10時限

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 皇帝と皇后
2. 外戚と宦官
3. 儒教の「孝」と肉刑
4. さまざまな宮廷文化
5. 洪武帝の宮廷
6. 建文帝の宮廷
7. 永楽帝の宮廷
8. 明清時代の北京
9. 紫禁城の内城と外城
10. 南巡と京劇
11. 宗教と暦法
12. 典礼問題
13. 奏摺政治
14. 垂簾聴政
15. まとめ
16. 期末テスト（長文論述形式）

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回資料プリントを配付するので、講義の前後に熟読して内容を把握し、わからない用語や概念については各自調べておくこと。また関係する書籍を読み、理解を深めておくこと（毎回3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 史料プリントを講義中に配付する。  
 参考文献は講義中に適宜紹介する。

## 社会史特講Ⅵ

〔担 当 者〕小嶋 博巳  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

〔遍歴の社会史、巡礼の民俗誌〕一見、自足的に完結しているようにみえる定住の村落社会も、生活のうちのかなりの局面を外部から訪れる遍歴の者たちとの交渉のうちに営んできた。また、ふだんは村にあって生業に従う人びとにも、ときに巡礼・物語で（ものもうで）というかたちで一時的に遍歴者の境遇を体験する機会があった。この講義では、近世から近代を主たる対象として、日本の社会における遍歴の諸相を講じる。前半は民俗社会における遍歴・巡礼のあり方を検討し、後半ではとくに近世中・後期に相当数の人びとが身を投じた六十六部（日本廻国）という巡礼について詳しく取り上げる。

## ●到達目標：

- ①日本の社会史や民俗文化を、定住と遍歴の交渉という視座から理解し、説明することができる。  
 ②歴史世界へのアプローチとして文字史料と民俗資料を活用する方法があることを知り、応用できる。

## ●成績評価の基準：

- 小テスト 20%（到達目標①②）
- 期末レポート 80%（到達目標①②）

## ●留意事項：

文字とおり「特講」（特殊講義）であって、一般的な民俗学の内容を講ずる授業ではないことは承知されたい。  
 オフィスアワーは月曜日5・6時限とする。もとより、在室の限りは随時、質問・相談に応じる。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 村に入り来る者
  2. 巡礼という回路
  3. 諸巡礼の歴史と構造
  4. 成年儀礼としての巡礼
  5. 社会的弱者の巡礼
  6. ハンセン病と巡礼
  7. 乞食の効用
  8. 村落慣行としての乞食
  9. 「哥吉廻国物語」
  10. ロクブという旅人
  11. 経筒・経塚と中世の納経聖
  12. 廻国供養塔と近世の廻国者
  13. 六十六部縁起と職人の起源伝承
  14. 職業的巡礼者集団の活動
  15. 遍歴の欲求、めぐりの文化
- 期末レポート

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の講義で、考えながら、注意深くノートをとることを求める。その上で、講義の要点を復習し、紹介された文献を読むなどして、理解を深めていってほしい。期末レポートには、講義内容を理解した上で、独自の文献講読によって得た情報や考察を加味することを求めるので、関連文献の講読は必須である。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 教科書は使用しない。毎回、資料プリントを配布する。  
 参考文献は講義中に紹介し、資料を配布する。



史料講読Ⅰ

〔担 当 者〕西尾 和美  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕4  
〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o4

●本授業の概要：

本授業は、日本古代・中世を対象に、歴史研究の基礎となる史料講読の基本的諸力を養うことを目的とする。第1期（1～15）は、古代・中世史料の講読に不可欠な古文書学的知識とくずし字について、いずれも入門的知識を身につける。第2期（16～30）は、活字テキストを中心に用いつつ、内容に踏み込んで史料を読む力を身につける。

●到達目標：

- ①日本古代・中世の史料に関して、基礎的な古文書学的知識を説明できる。
- ②基本的な活字テキストおよび古文書テキストを読むことができる。
- ③史料の内容を読み解き、そこから導いた発見や疑問を述べることができる。

●成績評価の基準：

4回的小テスト（各学期の中間・期末に予定）60％（到達目標①②③）  
授業への取り組み（予習、提出物、発表）40％（到達目標①②③）

●留意事項：

授業はグループ学習を中心に進める。読解や史料の背景などについて各自調べてきたことを持ち寄り、グループごとに取りまとめて発表してもらう。各自が努力し、互いに学びあうことを重視して進める。小テストは授業内に行う。  
オフィスアワーは授業中に指示する。質問は、演習形態の授業なので、随時、授業内に受けつける。

なお、後半の史料読解演習（16～30）では、室町期荘園として知られる備中国新見荘の史料（『東寺百合文書』）をテキストとして用いるが、受講生の状況によって、本能寺の変について新たな論点を提供した『石谷家文書』、『今昔物語集』などに変更することがある。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 古代・中世社会とその資史料
2. 古文書の基礎知識
3. 律令国家の成立と文書
4. 律令国家の文書（1）符と解ほか
5. 律令国家の文書（2）文書を読む
6. 律令国家の崩壊と文書の変容
7. 平安期の文書（1）奉書と下文の系統
8. 平安期の文書（2）文書を読む
9. 小括・小テスト
10. 武家社会の成立と文書
11. 武家の文書（1）下文・奉書・下知状
12. 武家の文書（2）鎌倉期の文書を読む
13. 武家の文書（3）武家文書の展開
14. 武家の文書（4）室町・戦国期の武家文書を読む
15. 小括・小テスト
16. 備中国新見荘の史料を読む（1）基礎知識：荘園
17. 備中国新見荘の史料を読む（2）基礎知識：歴史
18. 備中国新見荘の史料を読む（3）基礎知識：地理
19. 備中国新見荘の史料を読む（4）新見荘の成立から東寺への寄進まで
20. 備中国新見荘の史料を読む（5）守護細川氏による代官支配
21. 備中国新見荘の史料を読む（6）百姓による守護代官の追放
22. 小括・小テスト
23. 備中国新見荘の史料を読む（7）百姓の直務要求
24. 備中国新見荘の史料を読む（8）東寺との交渉
25. 備中国新見荘の史料を読む（9）東寺の現地調査
26. 備中国新見荘の史料を読む（10）東寺代官の下向と百姓
27. 備中国新見荘の史料を読む（11）百姓の年貢減免交渉
28. 備中国新見荘の史料を読む（12）東寺代官の死
29. 備中国新見荘の史料を読む（13）代官の世話をした女性
30. 小括・小テスト

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

高校時代までの古文・漢文知識、歴史知識を復習するとともに、毎回の授業で得た新しい知識を繰り返し復習してほしい。毎回、次回に読む史料を事前にプリント配付するので、各自必ず予習をしてくること。授業で紹介する辞書や文献等を用いた主体的な授業外学習が毎回不可欠である（3時間程度）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
授業で用いる活字テキスト・古文書テキストは、プリントで配付する。

＜参考書等＞  
以下のほか、授業で紹介する。  
『新版 古文書学入門』、佐藤進一著、法政大学出版局  
『演習古文書選 古代・中世編』、日本歴史学会編、吉川弘文館

史料講読Ⅱ

〔担 当 者〕三宅 正浩  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕4  
〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o4

●本授業の概要：

日本近世社会で生成された諸史料のなかから、“文字で表された史料”を講読する。“文字で表された史料”は文献史料と言い換えることができるが、文献史料といっても簡単に一括りにすることはできない。なぜならば、史料が生成された階層・作成目的などによって、様々な形態・用字・文体をとったからである。

●到達目標：

和様漢文の読み方，“くずし字”の解読方法、史料を解釈する技術、史料内容を分析する方法を身につける。合わせて歴史用語に関する知識を得ることを目標とする。

●成績評価の基準：

|           |     |
|-----------|-----|
| 授業への取り組み度 | 10％ |
| 口頭発表      | 10％ |
| 中間試験      | 40％ |
| 最終試験      | 40％ |

●留意事項：

解読用のプリントは配布する。発表の際には、十分な準備をした上で、人数分のレジュメを印刷・持参すること。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 解読用の史料を紹介する。発表ローテーションを決める。
- 2～5. 史料講読と発表・質疑応答（1）  
往來物を輪読する。合わせて“くずし字”解読の練習を始める。
- 6～14. 史料講読と発表・質疑応答（2）  
岡山の地域史料を輪読する。これにより和様漢文の読み方について学習する。また歴史用語に関する知識を身につける。
15. 小括・中間試験
16. 解読用の史料を紹介する。発表ローテーションを決める。
- 17～29. 史料講読と発表・質疑応答（3）  
岡山大学附属図書館所蔵「池田家文庫」内の史料を輪読する。これにより“くずし字”の解読方法と、史料から得た情報を整理していく方法を身につける。
30. まとめ・最終試験

※授業の進め方や取り上げる史料については受講生の興味関心・習熟状況などに応じて変更することがある。

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）史料の解読を、各自予習として行い、疑問点を把握した上で、授業に出席する。  
（復習）授業内容の復習が不可欠である。これを行うか、行わないかによって読解力の鍛えられ方には大きな差が生じる。地道な努力を重ねてゆくように心がける。

【必携書（教科書販売）】

『漢字くずし方辞典』、児玉幸多編、東京堂出版  
『くずし字解読辞典一付・かなものじの解読』、児玉幸多編、東京堂出版

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
なし

## 史料講読Ⅲ

〔担 当 者〕鈴木 真  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕4  
〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o4

### ●本授業の概要：

近世中国の知識人が記した、筆記などの漢文史料の講読を主におこなう。毎時間、比較的短い漢文の文章を全員で講読し、その内容について解説する（授業予定一覧の内容は例であり、進み具合によって変更する場合がある）。

### ●到達目標：

- ①「返り点」や「送りがない」のない漢文史料を解釈し、日本語に訳すことができる。
- ②前近代の中国社会に関する専門用語や概念について具体的に説明できる。

### ●成績評価の基準：

- ・予習・小テスト・平常点：50%（到達目標①②）
- ・中間テスト・期末試験：50%（到達目標①②）

### ●留意事項：

成績評価、および出欠・遅刻の管理は厳格におこなう。  
講読用の史料は、プリントを配付する。  
予習は必須。毎回授業の始めに、理解度を確認する小テストをおこなう。  
また授業には必ず漢和辞典を持参すること（詳細は初回講義で説明する）。  
オフィスアワー 火曜日 9,10時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 講義概要
2. 「天罰」
3. 「翠雲」
4. 「幻術」
5. 「神罰」
6. 「功罪」
7. 「小人」
8. 「義侠心」
9. 「李半仙」
10. 「青苗神」
11. 「刀筆」
12. 「生霊」
13. 「烈女」
14. 「深慮」
15. まとめ・試験
16. 「千里客」
17. 「胡求為鬼魅」
18. 「劉刺史奇夢」
19. 「塞外二事」
20. 「羅刹島」
21. 「大小緑人」
22. 「雀報恩」
23. 「徐崖客」
24. 「鏡水」
25. 「十八灘頭」
26. 「為児策備」
27. 「花魄」
28. 「天后」
29. 「番僧化鶴」
30. まとめ・試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

事前予習を出席・受講の前提条件とする。毎回史料プリントを配付するので、必ず漢和辞典を引いて、単語の意味や漢字の読み方について調べておくこと（毎回3時間程度）。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
漢和辞典（出版社は問わないが、書籍タイプのもの）  
詳細は初回の講義で説明する（高校時代に使用していた漢和辞典を持参すること）

## 史料講読Ⅳ

〔担 当 者〕轟木 広太郎  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕演習・講義 〔単位〕4  
〔科目ナンバリング〕250B0-2340-o4

### ●本授業の概要：

社会史に限らず、広く歴史学は史料に基づいて組み立てられる学問であり、自分なりに新しい歴史像を作り上げるには、史料から出発することが欠かせない。そこで本授業では、様々な時代とトピックの社会史関連史料をとりあげ、そこからどのようなテーマを見出すことが可能か、また史料からどのようにして重要なポイントを拾い上げていくかを実践的に学ぶ。なお、史料は主として原典の英訳版を用いる。

### ●到達目標：

- ①取り上げる史料の時代的背景を理解するとともに、できるだけ正確に史料を読解できる。
- ②史料の読解をどのように新たな歴史像に結びつけていくか、その発想と手法に習熟する。

### ●成績評価の基準：

平常点（80%）（到達目標①②）と年数回の小テスト（20%）（到達目標①②）による総合評価。

### ●留意事項：

オフィスアワーは授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 社会史の史料についての導入的解説
- 2-6. 古代社会史関連の史料読解
- 7-12. 中世社会史関連の史料読解（小テストを含む）
- 13-17. 近世社会史関連の史料読解
- 18-22. 近代社会史関連の史料読解
- 23-27. 現代社会史関連の史料読解（小テストを含む）
- 28-30. 受講生による史料紹介

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

配布されたテキストの読解には十分な予習が必要となる。語学辞典や、関連するテーマの概説等を活用し、授業の準備に努めることが求められる（毎回2時間程度）。歴史学的また語学的に不明な点は授業中に積極的に質問して解決を図る努力が求められる。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜必携書＞  
授業で用いる史料は随時プリントして配付する。

地理学概論

〔担 当 者〕河合 保生  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250B0-1234-o2

●本授業の概要：

地理学は地域を対象に研究をする科学であり，系統地理学と地誌学に大別される。前者はさらに自然地理学と人文地理学に分かれる。本授業では身近な諸事象と具体的事例を取り上げ，地図や写真を通して地理学各分野について地理学的視点から事例を選び講義する。高校で地理を履修しなかった学生が多いことを考え，この講義は地理学への入門的な内容とする。

●到達目標：

- ①地域を分析するための地理学な見方や考え方の基本が習得できる。
- ②地形図等の読図をはじめ，各種地図が効果的に活用できる。
- ③大学での地理学研究に必要な基本的な知識や中学校・高校での地理の学習指導に必要な基礎力が獲得できる。

●成績評価の基準：

- ・授業への取り組み度 20％（到達目標①②）
- ・課題レポート 20％（到達目標①②③）
- ・定期試験 60％（到達目標①②③）

●留意事項：

- ・オフィスアワー 木曜日9.10時限
- ・中学校社会科・高等学校地理歴史科の教職資格取得に必修となっている。
- ・「人文地理学」と連動させて授業を展開する。
- ・地理学概論のみの受講も可能である。内容は重複しないよう配慮する。

●実務経験の授業への活用方法：

高等学校で地理を履修していない学生が大部分であることを鑑み，高等学校での「地理」の指導経験を生かしながら，学問としての大学地理学の授業を行う。

●授業予定一覧：

- 1 学問としての地理学
- 2 地理学の学び
- 3 地理学と社会
- 4 地理学の歴史
- 5 地理学の諸分野
- 6 地理学研究のための参考文献と情報
- 7 地図と空中写真
- 8 地形図の活用
- 9 主題図と作成方法
- 10 統計の利用
- 11 G I S
- 12 フィールドワークの理念と実際
- 13 地理学会と地理教育
- 14 地理学の応用
- 15 地理学の諸問題
- 16 定期テスト

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

あらかじめ授業の内容にかかわるテキストの範囲を予習したり，地図の作業などに取り組んで授業に臨んでいただきたい（1時間30分）。また，授業後も学習した内容の整理や地理的諸課題を地域に見出して，その解決方法も考えるように努めて欲しい（復習1時間30分）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>
- 初回の授業前に販売
  - ・『第2版 ジオ・パルNEO－地理学・地域調査便利帖－』，野間晴雄他編著，海青社

- <参考書等>
- 授業時に指示
  - ・帝国書院編集部編『新詳高等地図（地図・310）』（帝国書院）等の地図帳（高校で使用したものでよい）
  - ・25,000分の1地形図（授業前に販売する予定）
  - ・授業時に別途資料プリントを配布する。

人文地理学

〔担 当 者〕河合 保生  
〔開 講 期〕2 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250B0-1234-o2

●本授業の概要：

地理学における現代的課題を題材とし，それらに対応するあらたな地理学からの視点や研究方法を学ぶ。「地理学概論」をやや発展させた内容とし，「地理学概論」「地誌学（Ⅰ・Ⅱ）」との関連を図りながら，人文地理学の具体的な研究像が理解できるよう講義する。

●到達目標：

- ①人文地理学的主要分野の研究内容についての基礎的知識と研究方法が習得できる。
- ②地理的見方・考え方の能力を伸長することができる。
- ③地域研究と社会人として必要な資料収集及び分析方法の基礎的素養が獲得できる。

●成績評価の基準：

- ・授業への取り組み度 20％（到達目標①②③）
- ・課題レポート 20％（到達目標①②③）
- ・定期試験 60％（到達目標①②③）

●留意事項：

- ・オフィスアワー 木曜日9.10時限
- ・中学校社会科・高等学校地理歴史科の教職資格取得に必修となっている。
- ・地理学概論と連動した授業であるが，内容事例の重複は避けている。
- ・地理学概論を受講していなくても理解できる内容とするので，人文地理学のみの受講も可能である。

●実務経験の授業への活用方法：

高等学校での「地理」の指導経験を通して獲得した知見を踏まえ，高等学校で「地理」を履修していない学生に対しても容易に理解できるよう，大学での地理学を教授する。

●授業予定一覧：

- 1 人文地理学の特質と研究原理
- 2 地形図から読み取る人間生活と環境
- 3 人口地理学と研究視点
- 4 都市地理学と研究視点
- 5 郊外化と大都市圏
- 6 商業地理学－小売り業の変貌を中心に－
- 7 サービス業の地理－第3次産業の多様性－
- 8 観光地理学の諸相
- 9 交通地理学と都市構造
- 10 工業地理学から見た工業地域の変容
- 11 国土政策と都市政策
- 12 エネルギー・資源問題
- 13 地域調査の方法
- 14 人文地理学の諸問題
- 15 人文地理学研究の実際
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

あらかじめ授業の内容にかかわるテキストの範囲を予習したり，地図の作業などに取り組んで授業に臨んでいただきたい（予習1時間30分）。また，授業後も学習した内容や地理的諸課題を地域に見出して，その解決方法も考えるように努めて欲しい（復習1時間30分）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>
- 初回授業前に販売
  - ・『現代社会の人文地理学』，稲垣 稜著，古今書院

- <参考書等>
- 授業時に指示
  - ・帝国書院編集部編『新詳高等地図（地図・310）』（帝国書院）等の地図帳（高校で使用したものでよい）－地理学概論・自然地理学・地誌学Ⅰと共通－
  - ・講義中に資料及び課題プリントを配布する。

自然地理学

[担 当 者] 松多 信尚  
[開 講 期] 2 期  
[授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 250B0-1234-o2

●本授業の概要：

自然地理学の基礎を中心として、地理学的な見方・考え方および基礎的技能を学ぶ。災害を理解することを終着点として、世界の気候・地形を具体的に解説し、その中で日本の気候・地形の特徴を捉える。また、自然災害だけでなく、環境問題とともに変化する自然環境および人々の生活を解説する。可能ならば、半日か1日の巡検を企画します。

●到達目標：

自然地理学の基礎となる全地球規模の気候・地形に関する知識および日本の気候・地形の特徴を説明できる。また、地理的技能を習得し、読図ができる。これらの知識・技能を応用可能な知識・技能とするため、地理的な見方・考え方を習得し、最終的な到達目標は何気ない見慣れた景色が意味のある景観として説明でき、文化・歴史・生活・社会と自然景観・環境とを結びつけて捉えられることである。

●成績評価の基準：

出席を前提とし、受講態度を勘案しながら、以下の基準で総合的に評価する。  
・授業への取り組み度：30％  
・学期末試験：70％ 基本的な知識の記述を課し、それをもとに自然環境を考察する能力を判別する。

●留意事項：

授業時間には色鉛筆（赤・青）を持参すること。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. 地理的な見方・考え方、自然地理学とは何か（イントロダクション）
2. 自然災害とその地理学的意味 必要な概念 内の営力と外的営力
3. 内の営力の地形 プレートテクトニクス
4. 内の営力の地形 火山
5. 内の営力の地形 地震
6. 日本の内の営力の地形 復習
7. 大気大循環 と 世界の気候
8. 局所的な要因 と 日本の気候
9. 気候変化 と 氷期 間氷期
10. 環境と外的営力の気候変化と地形
11. 外的営力の地形 侵食の地形 山地
12. 外的営力の地形 堆積の地形 平野
13. 外的営力の地形 海岸の地形
14. 外的営力と気候の復習
15. 地形変化と災害 人々の暮らし

学期末試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

プリントを配布しますが、白黒で縮小したものになるので、希望者に事前にカラーの図のファイルを配ります。印刷するか、ファイルを見られる状態で授業を受けられるとよいかと思います。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

高等地図帳

<参考書等>

テキストは指定しない。授業時間中に資料および課題プリントを配布する。参考書および参考文献は講義中に随時紹介する。

地誌学 I

[担 当 者] 河合 保生  
[開 講 期] 2 期  
[授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 250B0-1234-o2

●本授業の概要：

地誌学は地域地理学とも称され、系統地理学とともに地理学の両輪をなしている。地誌学の本質と研究方法を明確にした後、日本地誌を中心に各地域との関わりについても触れながら具体的事例を通して解説し、地域の課題について考察する。高校での地理履修の有無は問わない。

●到達目標：

- ①日本の諸地域について、地理的にもっとも特色あることの把握の仕方（動態地誌の見方）から地域理解ができる。
- ②地理的な見方・考え方を通して中学校社会科・高等学校地理歴史科の指導はもとより、社会人として不可欠な地域理解のための手法を身につけることができる。

●成績評価の基準：

- ・授業への取り組み度（リアクションペーパーの活用など） 20％（到達目標①②）
- ・課題レポート 20％（到達目標①）
- ・定期試験 60％（到達目標①②）

●留意事項：

- ・オフィスアワー 木曜日9・10限
- ・中学校社会科、高等学校地理歴史科の教職資格取得に選択必修となっている。
- ・「自然地理学」、「人文地理学」、「地誌学Ⅱ」と関連した授業内容である。
- ・「地誌学Ⅰ」のみの受講も可能である。

●実務経験の授業への活用方法：

高等学校での指導経験を通して獲得した指導技術を活用した指導を行う。

●授業予定一覧：

- 1 地誌総論、九州(1)－地理的位置と多様な自然環境
- 2 九州(2)－産業構造の変容と将来像
- 3 中国・四国(1)－多様性に富む自然環境と産業構造の非等質性
- 4 中国・四国(2)－域内結合の問題
- 5 近畿(1)－自然環境と歴史環境
- 6 近畿(2)－産業構造の変化と京阪神大都市圏
- 7 中部(1)－複雑な地形・気候と地域結合、特有の産業発達
- 8 中部(2)－地域構造、関東(1)－自然環境と産業特性
- 9 関東(2)－日本の中心・東京
- 10 東北(1)－多様な自然と災害
- 11 東北(2)－変化を続ける産業と地域の課題
- 12 北海道(1)－特色ある自然環境と産業
- 13 北海道(2)－地域の課題、日本地誌のまとめ
- 14 世界の諸地域(1)－旧大陸を中心に
- 15 世界の諸地域(2)－新大陸を中心に
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

地誌学の扱う内容は広範囲なので、限られた時間内では地域の特徴的な事象を中心とした授業内容となるので、テキストを熟読して授業に臨むことが必要となる（予習1時間30分程度）。

また、授業後も各地域の特色や課題をノートに整理しつつ、地域情勢に眼を向け、地域の諸問題に関心を持ち、その解決策を考えるなどの姿勢を持っていただきたい（復習1時間30分程度）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- ・菊池俊夫編、『世界地誌シリーズ1 日本』、朝倉書店  
※最初の授業日に販売する。

<参考書等>

- ・帝国書院編集部、『新詳高等地図 地図－310』などの地図帳（高校で使用したものでよい）
- ・講義中に資料及び課題プリントを配付する。



## 文化人類学

〔担 当 者〕加藤 正春  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2300-o2

## ●本授業の概要：

本授業は、文化人類学がフィールドワークを通じて積み重ねてきた人間と文化のあり方に関する知見を、具体的な事例の学習を通して学ぶことを目的とする。授業では、環境に対する人間の依存・開発の営みとしての生業形態を中心に、いくつかの社会をとりあげて、人々が築きあげてきた生活様式の諸相を紹介し、その変容についても言及する。この学習を通じて、環境に直接に依存する文化要素と環境から自立して作り上げられた文化要素の存在を確認し、人間と文化の多様性について考察を巡らす。

## ●到達目標：

- ①狩猟採集社会に関して、環境に依存する文化要素と環境から自立して展開する文化要素とを類別する。
- ②牧畜社会に関して、環境に規定される文化要素とそれ以外の文化要素を類別する。
- ③農耕社会に関して、環境に規定される文化要素とそれ以外の文化要素を類別する。
- ④以上を通して、人間が築き上げてきた文化の独自性と多様性について考察する。

## ●成績評価の基準：

- 授業中のレポート 50点（到達目標①②③）
- 期末テスト 50点（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 文化人類学とはどういう学問か
  2. 文化人類学の学説史
  3. 異文化理解の基本視角
  4. トーテミズム研究と異文化理解
  5. トーテミズム研究の現代的転換
  6. ヒトの進化史
  7. 狩猟採集の基礎概念
  8. 狩猟採集社会とその変容
  9. 牧畜の基礎概念
  10. ヌエル：牧畜社会の事例
  11. ヌエルの現在：独立と内戦
  12. 農耕社会の基礎概念
  13. キリウィナ諸島の農耕体系
  14. 生産と価値体系
  15. 伝統文化の現代的変容
- 期末テスト

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

今回の授業で用いる資料プリントを予め配布するので、それを読み、疑問点等をまとめて授業に出席すること。一つの話題が終了するごとに、その内容理解を確認するための小レポートを課す。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

参考文献などは講義のなかで紹介する。

## 哲学基礎

〔担 当 者〕出村 和彦  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-1234-o2

## ●本授業の概要：

まず哲学の学的立場を確認し、西洋哲学の様々な視点を紹介し、「知恵の探求」という観点から理解を深める。聴講者は現代社会学科の学生であること、教職志望の方もいることを考慮して、現代社会との関係で、哲学、倫理学、人間学、日本思想史、宗教学の領域についても広く見渡せるように配慮する。

## ●到達目標：

西洋における哲学的思索とその諸問題を簡単に展望することによって、哲学的思索をする際の手引きを学ぶ。

## ●成績評価の基準：

小テスト（20%）、中間・期末レポート（80%）。以上を総合して評価する。

## ●留意事項：

この講義には、過去の哲学思想を学ぶことが現在の自分にとっていかなる意味があるかという問題意識をもって積極的に出席していただきたい。この講義の予備知識は不要であるが、知的好奇心の旺盛な学生の履修を期待する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 序 哲学の語義と課題 履修ガイダンス
2. I 何から知恵は始まるのか 1 驚き
3. 2 心に巣くう偶像の撤去
4. II 知識はどのように区別されるのか 1 知恵と学問的認識の区分
5. 2 存在論と形而上学
6. 3 実践的知恵として倫理学
7. 4 技術と制作学
8. III 認識の機能とは何か 1 経験の明晰化
9. 2 真理概念の特質
10. IV 人間についての問い 1 人間についての認識
11. 2 社会性の三段階 共同体の三類型
12. V 倫理への問い 1 習俗の相対化と道徳性の問題
13. 2 意志と自由
14. 3 愛と幸福
15. VI 文化と宗教への問い まとめ

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

教科書の指定箇所や毎回の授業で紹介した文献について、興味のある内容に関してそれを参考に理解を深めてほしい。特にレポートには講義内容を踏まえた課題に関してより多角的に、発展的な論述を求める。毎回授業を真剣に聴くと共に、積極的な質問や文献研究など、十分な授業外学習を進めてほしい

## 【必携書（教科書販売）】

『知恵の探求とは何か―哲学的思索への手引き―』、金子晴勇、知泉書館『方法序説』、デカルト、岩波書店

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 行政法

〔担 当 者〕 高橋 正徳  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

本授業では、初めに行政法の基本原理解について理解したのち、「行政作用法」として行政行為および行政手続・情報公開について、「行政救済法」として行政上の不服申立ておよび行政事件訴訟について、さらに、「行政組織法」として地方行政組織について、その基本的な内容を習得する。

## ●到達目標：

身近で具体的な事例を素材にして行政法的基本的な仕組みを学ぶことにより、行政に対する授權と統制の法としての行政法を実社会の中で活用できる。

## ●成績評価の基準：

小テスト：30％  
 定期試験：70％

## ●留意事項：

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 1 行政法の基本原理解 (1)―法治主義
- 2 行政法の基本原理解 (2)―行政上の法関係
- 3 行政行為と行政裁量
- 4 行政行為の効力
- 5 行政行為の瑕疵
- 6 行政行為の撤回および付款
- 7 行政手続
- 8 情報公開
- 9 行政上の不服申立て
- 10 行政事件訴訟の類型
- 11 取消訴訟の訴訟要件 (1)―取消訴訟の対象、原告適格
- 12 取消訴訟の訴訟要件 (2)―訴えの利益、被告適格、出訴期間
- 13 取消訴訟の審理および判決
- 14 行政事件訴訟と仮の権利保護
- 15 地方行政組織
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）次週に予定されているテーマについて、テキストの該当部分を熟読し、概要を理解しておく。  
 （復習）配付されたレジュメ、資料とテキストを通じて、当該テーマについての理解を深める。

## 【必携書（教科書販売）】

『事例で考える行政法』、横山信二・廣瀬 肇編著、嵯峨野書院

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
 小型の六法（どれでもよい）

## 社会法

〔担 当 者〕 浅沼 友恵  
 〔開 講 期〕 1 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-2340-o2

## ●本授業の概要：

日本の社会政策諸制度を理解するとともに、問題点についても考察する。また、雇用問題を検討し、働く女性の法について理解を深めたい。

## ●到達目標：

国家公務員（Ⅱ種）、地方公務員上級試験の受験を希望する学生に基礎的な知識あるいは基本的な思考方法を習得させたい。

## ●成績評価の基準：

授業への取り組み度：30点  
 定期試験：70点

## ●留意事項：

六法辞書について、授業では『デイリー六法』を使用するが他にすでに持っているならば、それを使用してもかまわない。

## ●実務経験の授業への活用方法：

- ①金融機関に勤務経験あり。
- ②金融機関では公的な社会保障制度の理解が大前提であり、それを補完する金融商品との関係の理解が業務遂行の基本であるとともに、就職するにあたり、雇用のルール（男女雇用機会均等法や育児休業、就業時間制や残業法制、リストラの要件等）を知っておくことも職業生活には必要である。また、公務員試験の「社会政策」科目に対応する知識はどの分野の就職活動にとっても有益である。
- ③ 学生には就職するにあたり必要な働き方のルールから、自らが関わる社会保障制度までの理解をとおして、学生自身のライフプラン、ライフワークバランスの考察を促す。

## ●授業予定一覧：

- I. 社会政策概論
  - 第1回 〔1〕社会政策の歴史
  - 第2回 〔2〕世界の社会政策
- II. 日本の社会政策
  - 〔1〕所得保障政策
    - 第3回 ①公的年金制度
    - 第4回 ②障害年金・遺族年金制度
    - 第5回 ③企業年金制度
    - 第6回 ④生活保護制度
  - 〔2〕医療保障政策
    - 第7回 ①健康保険制度
    - 第8回 ②高齢者の健康保険制度
  - 〔3〕雇用・失業政策
    - 第9回 ①現代雇用情勢から見る女性の雇用
    - 第10回 ②男女雇用機会均等法について
    - 第11回 ③障害者雇用
    - 第12回 ④雇用保険
  - 〔4〕労働基準政策
    - 第13回 ①内定と労働契約、働き方の多様化と賃金問題
    - 第14回 ②育児介護休業法と休業中の所得保障について
    - 第15回 ③労災保険
- 第16回 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

予習はテキストの次のテーマの部分に目を通すことを希望します。授業中はノートに取り方に工夫をしてください。特に、板書のみを書き取っているケースが見受けられますが、説明なども書き加え復習しやすいノートの作成を希望します。試験前にまとめて復習しようとする多岐にわたる内容を網羅することが難しいため、その都度配布されたプリントやノートの内容を見直し定着をはかるように努めてください。

## 【必携書（教科書販売）】

『社会保障法 第6版』、加藤 智章、有斐閣

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 経済学基礎

〔担 当 者〕 浅野 貴央  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-1234-o2

### ●本授業の概要：

経済学の視点から光を当てることによって、複雑な社会問題を理解し、我々が「常識」と考えている事柄が本当に「常識」なのかどうか、自ら判断できる能力を涵養することを目指す。数学を極力使うことなく、直観的な説明によって、経済学の理解を深めることを目指す。

### ●到達目標：

基礎的なミクロ経済学の考え方に基づいて現実世界の問題を深く理解できるようになること。

### ●成績評価の基準：

出席（20%）、中間試験（40%）、期末試験（40%）

### ●留意事項：

定期試験は持ち込みを一切不可とします。

### ●実務経験の授業への活用方法：

#### ●授業予定一覧：

1. イントロダクション
2. ミクロ経済学とは？
3. 個人の選択を考える
4. 費用、トレードオフ
5. インセンティブ
6. 完全競争市場
7. 市場均衡と効率性
8. これまでの復習
9. 完全競争市場への政府の介入
10. 死荷重
11. 市場の失敗と政府の役割
12. 独占
13. 外部性
14. 公共財
15. 総復習
16. 定期試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業は教科書の内容に基づいて行う。スライドを用いてできるだけわかりやすく講義を行う。教科書の内容について、予習と復習を欠かさないことが求められる。

#### 【必携書（教科書販売）】

ミクロ経済学の第一歩，安藤至大，有斐閣

#### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## 社会倫理学 I

〔担 当 者〕 崎川 修  
 〔開 講 期〕 2 期  
 〔授 業 形 態〕 講義 〔単位〕 2  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-1234-o2

### ●本授業の概要：

現代社会における「いのち」についての様々な問題を、倫理学的な視点から検討する。本講義では主に生命の「誕生」を中心に考察する。またカトリック教会の生命倫理についての考え方にも触れる。

### ●到達目標：

1. 現在の生命科学と生命倫理の最新状況についての知識を獲得する。
2. 倫理学的な問題意識から、生命の問題を考察することができるようになる。
3. 参加者一人一人が「いのち」のあり方について、自分自身の生の問題と結びつけて問うことができるようになる。

### ●成績評価の基準：

受講態度、リアクションペーパー：30%（到達目標3）  
 定期試験：70%（到達目標1,2）

### ●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

### ●実務経験の授業への活用方法：

#### ●授業予定一覧：

- 1 導入：「いのち」の現在形
- 2 生命観とその系譜①古典的生命観
- 3 生命観とその系譜②近代的生命観
- 4 生命倫理学の誕生
- 5 「誕生」をめぐる倫理
- 6 出生前診断
- 7 パース・コントロールの倫理
- 8 人工妊娠中絶をめぐる問題
- 9 人工生殖技術の諸問題
- 10 人工授精と体外受精
- 11 代理母・代理出産
- 12 クローン技術の諸問題
- 13 高度人体改造医療をめぐる問題
- 14 カトリック教会と生命倫理
- 15 まとめ
- 16 筆記試験

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）教科書やプリントの該当箇所を事前に読んでおくこと。  
 （復習）関連するニュースや文献などを調べ、自分自身の意見を整理しておくこと。

#### 【必携書（教科書販売）】

『新・いのちの法と倫理』，葛生栄二郎・河見誠・伊佐智子著，法律文化社

#### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<参考書等>

『いのちへのまなざし【増補新版】』，日本カトリック司教団著，カトリック中央協議会，2017年

その他参考書は授業内で随時紹介する。  
 教科書の他に、プリント資料を配布する。

社会教育学

[担 当 者] 西井 麻美  
[開 講 期] 1 期  
[授 業 形 態] 講義・演習 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 250B0-2340-o2

●本授業の概要：

社会に目を向けて、そこにある教育課題を探りながら、社会教育として取り組まれてきたことについて把握するとともに、現代の課題を探求する。また、生涯学習の分野も視野に入れて考究する。授業では、探求過程としてディスカッションを行う。また、関心のある社会教育活動についての調べ学習を行い、調べた成果についてプレゼンテーションをしてもらう。

●到達目標：

1. 社会教育についての基本的な考え方や、基本となっている法規や規定などについて記述できる。
2. 社会教育の活動の在り方について説明できる。

●成績評価の基準：

授業への参加態度 40%  
課題レポート 30%（到達目標1,2）  
発表（プレゼンテーション） 30%（到達目標2）  
以上の割合で評価する。

●留意事項：

オフィスアワー 授業中に指示する

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. オリエンテーション
  2. 戦後日本の社会教育の展開―戦前と比較して
  3. 今と昔、社会教育について考えてみよう
  4. 社会教育・生涯学習に係る行政
  5. 教育行政の役割について考えてみよう
  6. 社会教育・生涯学習に係る施策
  7. 政策を調べてみよう
  8. 社会教育・生涯学習に係る施設と学習支援
  9. 公民館について地域での役割を捉えてみよう
  10. 図書館・博物館について今日の動向をさぐる
  11. 社会教育・生涯学習の活動を探ろう
  12. 社会教育・生涯学習についての発表準備：討議
  13. 社会教育・生涯学習についての発表準備：発表資料作成
  14. 社会教育・生涯学習についての発表：1～3（予定）
  15. 社会教育・生涯学習についての発表：4～6（予定）
- 定期試験（課題レポート提出）

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

討議（ディスカッション）と発表（プレゼンテーション）を取り入れるため、事前に討議のための資料を調べたり、話し合いをしたりして準備することが求められる。

【必携書（教科書販売）】

生涯学習概論 鈴木眞理・馬場祐次朗・葉袋秀樹、樹村房

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

社会・地歴科教育法Ⅰ

[担 当 者] 河合 保生  
[開 講 期] 1 期  
[授 業 形 態] 講義 [単位] 2  
[科目ナンバリング] 250B0-2000-o2

●本授業の概要：

中学校社会科・高等学校地理歴史科教育の歴史を学び、平成29年3月改訂の中学校及び同30年3月改訂の高等学校の学習指導要領に基づき、中学校社会科の地理的分野・歴史的分野及び高等学校地理歴史編の目標、内容、指導法等について探究する。さらに、これらの社会科・地理歴史科教育の在り方についても考察する。なお、パソコンを利用した教材作成演習も行う。

●到達目標：

明確な教育理論と実践力を併せ持った教育者を目指し、先行実践事例に学びながら、社会・地理歴史科教員としての基礎的指導力と方法を習得する。それらをもとに学習指導案を作成し、模擬授業の実践ができるようになる。さらに、しっかりと教育理念と指導技術を持ち、現代的な教育課題に対応でき、ICTを活用した教材作成ができるようになる。

●成績評価の基準：

- ・授業への取り組み度 20%
- ・課題レポート・発表 40%
- ・定期試験 40%

●留意事項：

- ・オフィスアワー 木曜日9.10時限
- ・教職免中学校（社会）、高等学校（地理歴史）における「教職に関する科目」の必修科目である。
- ・教職免中学校（社会）の取得には「社会・公民科教育法Ⅰ」（第2期開講）、同高等学校（地理歴史）の取得には「社会・地歴科教育法Ⅱ」（2年次第2期開講）の履修が必要である。

●実務経験の授業への活用方法：

高等学校での指導経験を通して獲得した指導技術を活用した指導を行う。

●授業予定一覧：

- 1 社会科・地理歴史科教育の歴史と課題
- 2 中学校地理的分野の目標と内容構成
- 3 中学校地理的分野の指導計画と授業
- 4 高等学校地理科目の目標と内容構成
- 5 中学校地理的分野・高等学校地理の指導技術（ICTを活用した教材作成）
- 6 中学校歴史的分野の目標と内容構成
- 7 中学校歴史的分野の指導計画と授業
- 8 高等学校歴史科目の目標と内容構成
- 9 現行学習指導要領と改訂学習指導要領との比較
- 10 学習指導案の作成
- 11 模擬授業の実施（地理的分野・導入）
- 12 模擬授業（地理的分野）の振り返り
- 13 模擬授業の実施（歴史的分野・導入）
- 14 模擬授業（歴史的分野）の振り返り
- 15 学習指導と評価
- 16 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

学習指導要領に基づき、中学校社会科の目標や地理的分野、歴史的分野の目標及び内容について理解する必要がある。そのため、予習・復習を通して学習指導要領解説を熟読し、学習指導案の作成と授業につながる基本的な知識を身につけていただきたい（各回に関連する学習指導要領解説の熟読と整理3時間程度）。次期学習指導要領の変更方向についても注意を払いたい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

初回授業時に販売する。

- ・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』平成30年3月、文部科学省、東洋館出版社－社会・公民科教育法Ⅰと共通－
- ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』（平成31年発行予定、文部科学省）
- ・『社会科 中学生の地理』（帝国書院 地理）
- ・『新しい社会 歴史』（東京書籍 歴史）
- ・『中学校学習指導要領（平成29年告示）』、文部科学省
- ・『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』、文部科学省

<参考図書等>

- ・『GISで楽しい地理授業』、森泰三、古今書院
- ・『フリー GIS ソフト MANDARA10入門』、谷謙二、古今書院



## 社会・地歴科教育法Ⅱ

〔担 当 者〕河合 保生  
 〔開 講 期〕2 期  
 〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2000-o2

## ●本授業の概要：

社会・地歴科教育法Ⅰで習得したことを継承して、平成29年3月告示の中学校及び同30年3月告示の高等学校の学習指導要領を基に、中学校社会科地理的分野・歴史的分野及び高等学校地理歴史科の指導法等について発展的な探究を行う。さらに、ICTの活用や主体的、対話的で深い学びに繋がる社会科・地理歴史科教育の在り方についても考察する。なお、パソコンを利用した教材作成演習も行う。

## ●到達目標：

明確な教育理論と実践力を併せ持った教育者を目指し、先行実践事例に学びながら、社会・地理歴史科教員としての基礎的指導力と方法を習得する。それらをもとに学習指導案を作成し、模擬授業の実践ができるようになる。さらに、しっかりとした教育理念と指導技術を持ち、様々な教育課題に対応でき、ICTを活用した発展的な教材作成ができるようになる。

## ●成績評価の基準：

・授業への取り組み度 20%  
 ・課題レポート・発表 40%  
 ・定期試験 40%

## ●留意事項：

・オフィスアワー 木曜日9,10時限  
 ・教職免高等学校（地理歴史）「教職に関する科目」の必修科目である。  
 ・教職免高等学校（地理歴史）の取得には「社会・地歴科教育法Ⅰ」（2年次第1期開講）の履修が必要である。

## ●実務経験の授業への活用方法：

高等学校での指導経験をを通して獲得した指導技術を活用した指導を行う。

## ●授業予定一覧：

- 1 社会科・地理歴史科教育の教科論
- 2 中学校社会科と地理歴史科との内容構成の理論
- 3 高等学校「地理総合」「地理探究」の内容構成
- 4 地理の指導計画と授業
- 5 高等学校「歴史総合」と「世界史探究」の内容構成
- 6 世界史の指導計画と授業
- 7 高等学校「歴史総合」と「日本史探究」の内容構成
- 8 日本史の指導計画と授業
- 9 社会科地理的分野・歴史的分野及び地理・世界史・日本史教育の諸問題と論争点
- 10 社会科・地理歴史科教育の方法と評価論
- 11 社会科・地理歴史科教育におけるアクティブ・ラーニングの在り方
- 12 情報教育機器を活用した授業方法
- 13 社会科・地理歴史科の授業計画と授業と振り返り（地理的分野・地理）
- 14 社会科・地理歴史科の授業計画と授業と振り返り（歴史的分野・世界史）
- 15 社会科・地理歴史科の授業計画と授業と振り返り（歴史的分野・日本史）
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

学習指導要領に基づき、高等学校地理歴史科の目標や世界史、日本史、地理の科目目標及び内容について理解する必要がある。そのため、予習・復習を通して学習指導要領解説を熟読し、学習指導案の作成と授業につながる基本的な知識を身につけていただきたい（各回に関連する学習指導要領解説の熟読と整理 3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

## &lt;必携書&gt;

初回授業前に販売する。

- ・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』（平成30年3月）、文部科学省、東洋館出版社
- ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）地理歴史編』（平成31年発行予定、文部科学省）
- ・『中学校学習指導要領（平成29年3月告示）』、文部科学省
- ・『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示）』、文部科学省

## &lt;参考書等&gt;

授業時に指示

- ・高等学校地歴科を構成する科目の教科書

## 社会・公民科教育法Ⅰ

〔担 当 者〕國吉 久美子  
 〔開 講 期〕1 期  
 〔授 業 形 態〕講義・演習 〔単位〕2  
 〔科目ナンバリング〕250B0-2000-o2

## ●本授業の概要：

中学校社会科・高等学校公民科教育の歴史や理念を学び、公民的分野及び公民科の目標、内容、指導法等について考察する。さらに、実践研究や具体的な実践例を参考にしながら、講義や演習を通して、公民的分野を中心とした授業づくりの基本を学ぶ。また、これからの社会科・公民科教育の在り方についても考察する。

## ●到達目標：

社会・公民科教員として必要な専門的知識や教育方法の基礎を学び、教材研究、学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的指導力と資質を身につける。

## ●成績評価の基準：

- ・課題レポート・小テスト・発表：30%
  - ・学習指導案の作成・模擬授業：30%
  - ・定期試験：40%
- これらを総合して評価する。

## ●留意事項：

○教職免中学校（社会）、高等学校（公民）「教職に関する科目」の必修科目である。  
 ○教職免中学校（社会）の取得には「社会・地歴科教育法Ⅰ」（第1期開講）、同高等学校（公民）の取得には「社会・公民科教育法Ⅱ」（第1期開講）の履修が必要である。

## ●実務経験の授業への活用方法：

中学校の社会科担当教員及び小・中学校の管理職としての38年間の実践経験から、小学校・中学校・高等学校の児童生徒の実態と社会科公民科教育の実際を取り上げ、その課題に対して、理論を基にした実践的な解決方法を主体的に考えられるようにしていく。また、学習指導案の作成や模擬授業の実施を通して、学生の実践的指導力の向上を目指す。

## ●授業予定一覧：

- 1 社会科公民科教育の歴史と理念
- 2 学習指導要領の改訂と社会科公民科
- 3 公民的分野及び公民科の目標と内容
- 4 公民的分野及び公民科の全体構造、指導上の留意点、発展的な内容
- 5 中高校生の現状と授業づくりの基盤
- 6 学習指導案の作成方法
- 7 教材研究の活用方法
- 8 情報機器及び教材の効果的な活用法
- 9 指導計画と学習評価
- 10 社会科及び公民科の実践研究の動向
- 11 公民的分野の授業の実際
- 12 公民的分野の指導案の作成
- 13 模擬授業
- 14 模擬授業の振り返りと指導案の改善
- 15 社会科公民科教育の今日的課題
- 16 定期試験

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）この授業では、社会事象について自分なりの意見が持てるようになることを目指して、新聞を読んだり、関係する本を読む努力が望まれる。

（復習）配布されたプリント類は、以後の学習に活用できるように、講義ごとに整理してゆく。

## 【必携書（教科書販売）】

中学校社会科教科書（公民的分野）「新編新しい社会公民」、坂上康俊、戸波江二、矢ヶ崎典隆ほか49名、東京書籍株式会社

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』平成29年7月（個人での購入は不要です）  
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』平成30年7月（個人での購入は不要です）  
 文部科学省『中学校学習指導要領』平成29年3月  
 文部科学省『高等学校学習指導要領』平成31年予定

社会・公民科教育法Ⅱ

〔担 当 者〕田中 広 茅・河合 保生  
〔開 講 期〕1 期  
〔授 業 形 態〕講義 〔単位〕2  
〔科目ナンバリング〕250B0-3000-o2

●本授業の概要：

社会・公民科教育法Ⅰで習得したことを継承して、平成29年3月改訂の中学校及び同30年3月改訂の高等学校の学習指導要領を基に、中学校社会科の公民的分野及び高等学校公民科各科目の目標、内容、指導法等について探究する。さらに、ICTの活用や主体的、対話的で深い学びに繋がるこれからの社会科・公民科教育の在り方についても考察する。なお、パソコンを利用した教材作成演習も行う。

●到達目標：

明確な教育理論と実践力を併せ持った教育者を目指し、先行実践事例に学びながら、社会・公民科教員としての基礎的指導力と方法を習得する。それらをもとに学習指導案を作成し、模擬授業の実践ができるようになる。さらに、しっかりとした教育理念と指導技術を持ち、今日問題となっている教育課題に対応できるようにする。

●成績評価の基準：

- ・授業への取り組み度 20%
- ・課題レポート・発表 40%
- ・定期試験 40%

●留意事項：

- ・オフィスアワー 木曜日 9,10時限
- ・教職免高等学校（公民）「教職に関する科目」の必修科目である。
- ・教職免高等学校（公民）の取得には、「社会・公民科教育法Ⅰ」の履修が必要である。

●実務経験の授業への活用方法：

高等学校における公民科の指導を通して獲得した指導技術や知見を活用した指導を行う。

●授業予定一覧：

1. 中学校社会科と公民科教育の目標と内容構成論（担当：田中広茅）
2. 「現代社会」から「公共」への変更のポイント（担当：田中広茅）
3. 「公共」の内容構成（担当：田中広茅）
4. 「公共」の指導計画と授業（担当：田中広茅）
5. 「倫理」の内容構成（担当：田中広茅）
6. 「倫理」の指導計画と授業（担当：田中広茅）
7. 「政治・経済」の内容構成（担当：田中広茅）
8. 「政治・経済」の指導計画と授業（担当：田中広茅）
9. 社会科公民的分野及び公民科教育の諸問題・論争点（担当：田中広茅）
10. ICTを活用した社会科・公民科教育（担当：河合保生）
11. 社会科公民的分野及び公民科教育におけるアクティブ・ラーニング(担当：田中広茅)
12. 模擬授業の実施と授業の振り返り（公共）（担当：田中広茅・河合保生）
13. 模擬授業の実施と授業の振り返り（倫理）（担当：田中広茅・河合保生）
14. 模擬授業の実施と授業の振り返り（政治・経済）（担当：田中広茅・河合保生）
15. 公民科指導の実際（担当：田中広茅）
16. 定期試験

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

学習指導要領に基づき、高等学校公民科の目標や公共、倫理、政治・経済の各科目の目標及び内容について理解する必要がある。そのため、予習・復習を通して学習指導要領解説を熟読し、学習指導案の作成と授業につながる基本的な知識を身につけていただきたい。各回の学習指導要領の該当箇所の予習や模擬授業の準備に1時間30分、授業後の整理や振り返りに1時間30分程度が必要である。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業時に指示

- ・『中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）』
- ・『中学校学習指導要領解説（平成29年告示）社会編』、文部科学省、東洋館出版社
- ・『高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）』
- ・『高等学校学習指導要領解説（平成30年告示）公民編』（平成31年発行予定、文部科学省）

<参考書等>

授業時に指示

- ・高等学校公民科各科目の教科書

現代社会学演習 [c]

〔担 当 者〕山下 美紀  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕4  
〔科目ナンバリング〕250B0-3000-o4

●本授業の概要：

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。

本演習では、社会学的分析のスキルを用いて、卒業論文に取り組むための基礎力を身につける。自分の研究に必要な文献・調査資料の講読、資料・データの収集をし、毎回順番に各自の研究成果について報告してもらい、討論を行うことによって、自らの研究を深めてもらう。

●到達目標：

- ①社会学の方法論や分析視点を援用した研究方法を説明することができる。
- ②先行研究、必読文献を読みこなし、説明することができる。
- ③必要なデータ、資料を収集することができる。
- ④首尾一貫した論理的文章を書くことができる。
- ⑤自分の研究について、的確なプレゼンテーションをすることができる。

●成績評価の基準：

- 上記に掲げた到達目標の達成度をはかるため、複数回の発表と課題の提出を求める。
- |               |               |
|---------------|---------------|
| 発表および討論への取り組み | 30%（到達目標①②⑤）  |
| 中間報告          | 20%（到達目標①③⑤）  |
| 課題・レポート       | 25%（到達目標②③④）  |
| 最終報告          | 25%（到達目標①②③⑤） |

●留意事項：

- オフィスアワー 授業中に指示する。
- 随時、電子メールで質問を受け付ける。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

1. オリエンテーション 演習の進め方について
2. 研究テーマについての報告
3. 資料・文献の探し方について
4. 文献リストの作成・報告
5. 資料の扱い方について
6. 文献・資料の輪読① 社会の発見
7. 文献・資料の輪読② 社会的事実
8. 文献・資料の輪読③ 理論研究
9. 文献・資料の輪読④ 実証研究
10. 文献・資料の輪読⑤ 日常生活世界
11. 文献・資料の輪読⑥ 相互行為儀礼
12. 文献・資料の輪読⑦ 地位と役割
13. 文献・資料の輪読⑧ 近代家族とジェンダー
14. 文献・資料の輪読⑨ 家父長制とフェミニズム
15. 文献・資料の輪読⑩ 社会のメカニズム
16. 研究発表と討論① テーマの修正
17. 研究発表と討論② 先行研究の検討
18. 研究発表と討論③ 資料の収集と提示
19. 研究発表と討論④ データの解釈
20. 研究発表と討論⑤ 調査方法の提示
21. 中間報告 研究の進捗状況について報告
22. 研究発表と討論⑥ テーマの再修正
23. 研究発表と討論⑦ 文献の収集と提示
24. 研究発表と討論⑧ 資料・データの収集と提示
25. 研究発表と討論⑨ 調査方法の確認
26. 研究発表と討論⑩ テーマと調査方法の確定
27. 最終報告と討論① 進捗状況の確認
28. 最終報告と討論② 課題の析出
29. 最終報告と討論③ 方向性の確認
30. 卒業論文の執筆に向けて

※3年生対象

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業で発表を課すが、その日の内容に関して参考にすべき資料や文献等をそのつど紹介する。次の発表までに必ず目を通し、理解を深めてもらいたい（各回4時間程度）。演習後は、報告・討論から得られた知見やアドバイスを参考に、研究を進めていく上で必要な作業に積極的に取り組んでもらいたい（各回4時間程度）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『大学生の研究』（1年次購入済み）

<参考書等>

必要な文献や資料については随時指示する。

| 250                      | 44030 |
|--------------------------|-------|
| 現代社会学演習 [b]              |       |
| [担 当 者] 中山 ちなみ           |       |
| [開 講 期] 通年               |       |
| [授 業 形 態] 演習 [単位] 4      |       |
| [科目ナンバリング] 250B0-3000-o4 |       |

●本授業の概要：

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。

本演習では、各自の研究テーマに関する先行研究を読み進めるとともに、研究に必要な資料やデータを収集し、卒業論文執筆に向けて問題意識を深め、知見を広げてゆく。同時に、社会学の研究スタイルや方法論への理解を深め、その習得をめざす。おもしろい研究をするためには、おもしろい「問い」が必要である。その自分なりの「問い」を、1年間をかけて模索してほしい。

●到達目標：

- ①卒業論文における研究のために、自らの「問い」を発見し、問題設定をすることができる。
- ②自身の研究のために必要な情報を収集することができる。
- ③先行研究の適切な評価、データの妥当な解釈ができる。
- ④先行研究やデータを根拠としながら、論理的に思考し、さらに自分の論へ発展させることができる。
- ⑤自身の議論を、文章や口頭発表で明確に表現することができる。
- ⑥議論に積極的に参加し、他者の議論にコメントしようとする態度を示すことができる。

●成績評価の基準：

演習に臨む姿勢（報告のための準備や報告内容、討論への参加等を含む）：70％（到達目標①②③④⑤⑥）  
レポート・提出物等の課題：30％（到達目標①②③④⑤⑥）

●留意事項：

卒業論文執筆に向けての重要な演習であるから、自発的に勉強し、積極的に演習に参加する姿勢が求められる。よい研究をするために、時間と労力をかけることを惜しまず努力することを期待する。また、ゼミナールの他のメンバーとのコミュニケーションを図り、切磋琢磨しあう関係を築いてもらいたい。  
オフィスアワーについては、演習時に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

- 1. オリエンテーション
- 2. 研究テーマの報告
- 3. 卒業論文を執筆するにあたっての注意点
- 4. テーマ設定について
- 5～ 9. 文献の講読と討論
- 10～14. 研究経過の報告と討論
- 15. 前期のまとめと今後の課題の確認
- 16～17. 研究テーマの報告
- 18～22. 研究経過の報告と討論
- 23～27. 研究経過の報告と課題の検討
- 28～29. 研究テーマの確定と研究計画の設定
- 30. 卒業論文の執筆に向けて

※3年生対象

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

自身の研究の射程を長期的視野でとらえ、その時点での必要な作業に、自発的・積極的かつ根気強く取り組むことが大切である。「発表のため」の勉強をするのではなく、文献を読む・資料を探すなど、自分で課題をみつけて取り組まなければならない。そのために毎週少なくとも2～3時間程度の勉強時間を確保すること。もちろん、発表前の準備には十分な時間をかけて臨んでほしい。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『大学生の研究——その技法とルール——』を常に参照すること。なお、演習で講読する文献を購入することがありうる。

<参考書等>

各自の研究内容や進捗状況に応じて、随時、指示する。

| 250                      | 44040 |
|--------------------------|-------|
| 現代社会学演習 [a]              |       |
| [担 当 者] 河合 保生            |       |
| [開 講 期] 通年               |       |
| [授 業 形 態] 演習 [単位] 4      |       |
| [科目ナンバリング] 250B0-3000-o4 |       |

●本授業の概要：

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。そのため、はじめに文献検索・地図の活用・資料分析・地域調査など地理学や社会科教育に関する基本的な研究方法の習得を行う。次に各自が関心を持つ分野の先行研究や地域調査の結果などの報告を通して、研究テーマを確定していく。このため長期休業中などを利用したフィールドワークは、授業や研究を進める上で重要な意味をもつこととなる。

●到達目標：

- ①関連する文献検索や地形図読図・空中写真読解・統計処理・主題図作成などの基本的技術が習得できる。
- ②フィールドワークを通して、地域に関する実践的分析力を獲得することができる。
- ③文献調査やフィールドワークに基づく地域調査の結果を、効果的な手法で発表できる。
- ④最終的に卒業論文を作成する力量が獲得できる。

●成績評価の基準：

- ・演習への取り組み（発表や討論への参加状況）50％（到達目標①②③④）
- ・地理的技能（地図作成など）の修得状況 20％（到達目標①②）
- ・課題レポート 30％（到達目標①②③④）

●留意事項：

- ・オフィスアワー 木曜日9,10時限

卒業論文作成のための演習であるので、研究テーマや調査地域の設定などは、各自が積極的かつ主体的に取り組むことが必要である。広範な内容を含む地理学でも人文地理学分野での研究を対象とするが、社会科教育分野の研究も可能である。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：

授業のはじめは、地理学方法論を主とする講義とそれに関連する実習を行う。その後、各自の研究成果の発表をもとにした研究協議を行う。なお、授業の進行に応じ、適当な時期に学外でフィールドワークを行うことがある。

- 1 地理学研究概説
- 2 地理学研究の諸分野
- 3 基本文献と情報検索
- 4 地図類とその利用（地形図を中心に）
- 5 地図類とその利用（大縮尺図の活用）
- 6 統計利用とパソコン
- 7 パソコンの活用法
- 8 パソコンによる主題図作成
- 9 地域調査の方法（身近な地域の観察）
- 10 地域調査の方法（聴き取り調査）
- 11～30 各自のテーマに基づく文献報告及び調査地域の選定、並びに実践の発表及び研究の深化

※3年生対象

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業では地理学方法論を学ぶためにテキスト以外の教材を配付、紹介するので、予習、復習を通して確実な知識と技能を身につけていただきたい。また、各自の課題発表時には十分な準備を行い、発表後も得られたコメントを生かし、力量を高めて欲しい。パソコンの活用については、時間をかけた習熟が不可欠であるので、授業外の時間を利用し積極的に取り組みましょう。各回予習1時間30分、復習1時間30分は必要である。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

授業時に指示

- ・『ジオ・パル NEO ―地理学地域調査便利帖―』、野間晴雄他著、海青社

<参考書等>

- ・『GISで楽しい地理授業』、森泰三、古今書院
- ・地形図・空中写真など必要に応じて演習中に指示する。



| 250                      | 44050 |
|--------------------------|-------|
| 現代社会学演習 [d]              |       |
| [担 当 者] 二階堂 裕子           |       |
| [開 講 期] 通年               |       |
| [授 業 形 態] 演習 [単位] 4      |       |
| [科目ナンバリング] 250B0-3000-o4 |       |

●本授業の概要：  
各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。  
本演習では、卒論作成のための土台作りを目的として、先行研究の成果を学ぶほか、学外におけるデータ収集やその分析を体験する。まず1期では、近年に発表された地域社会学の文献を通して、地域社会の現状と課題に関する議論の動向を把握する。続く2期では、ある特定の地域社会、もしくはあるテーマに沿ったフィールドワークに、ゼミ生全員で取り組む。地域社会に対する豊かな知見と深い洞察力を身につけ、最終的に卒業論文のテーマを決定することをめざす。

●到達目標：  
①研究テーマに関する文献資料を批判的に検討することができる。  
②フィールドワークを実行できる。  
③フィールドワークによって収集したデータを分析することができる。  
④論理的に思考した結果をわかりやすく表現することができる。

●成績評価の基準：  
授業における報告の内容と討論への参加状況：30%（到達目標①③④）  
フィールドワークの実施に対する貢献度：20%（到達目標②③）  
レポート：50%（到達目標①③④）

●留意事項：  
・2期では質的調査に取り組むので、まだ「社会調査論Ⅲ」を受講していない場合は受講してほしい。  
・オフィスアワーは、授業中に指示する。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：  
1. オリエンテーション  
  
2～15. 先行研究の検討  
地域社会学の研究論文を読み込み、地域社会の現状と課題を検討する。毎回の授業では、担当者がその内容をまとめたレジュメを作成し、これに基づいて報告する。報告の後、全員で討論を展開する。

16～30. データ収集と分析  
ある特定の地域社会や集団、もしくは特定のテーマを対象とした調査研究に、ゼミ生全員で取り組む（具体的な場所やテーマは未定）。事前学習、現地調査、ゼミにおける成果報告の過程を経て、各自が卒業論文につながるテーマをより明確化していく。

※3年生対象

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：  
（予習）地域社会学に関する文献の検討、調査の企画と実施、および収集データの分析などを進めるにあたり、指示される作業を行ったうえで、発表者はそれらに関するプレゼンテーション用のレジュメを作成する（毎回3時間程度）。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】  
<必携書>  
輪読する書籍を、各自が購入するか、あるいはまとめて購入するかについては、別途指示する。

<参考書等>  
必要に応じて演習中に指示する。

| 250                      | 44060 |
|--------------------------|-------|
| 現代社会学演習 [e]              |       |
| [担 当 者] 濱西 栄司            |       |
| [開 講 期] 通年               |       |
| [授 業 形 態] 演習 [単位] 4      |       |
| [科目ナンバリング] 250B0-3000-o4 |       |

●本授業の概要：  
各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。本演習では特に、さまざまな社会現象（とくに環境・情報・グローバル化・雇用・経済・政治などに関わる現象）を、多様な集団・組織（国際機関・国家・会社・協同組合・NPO・利益集団・社会運動・NGO 他）の活動と複雑な関係性（協調・統合・隔絶・対立など）として捉え、全体社会の変動とも結びつけつつ、分析していくための専門的な知識・技法を修得する。

●到達目標：  
①既存の研究を批判的に検討することができる。  
②自身の関心を社会的な研究課題に展開することができる。  
③関心のある事例を選び、データを集め、分析を行うことができる。

●成績評価の基準：  
研究発表と討論：50%（到達目標①②③）  
課題論文：50%（到達目標①②③）

●留意事項：  
オフィスアワー：第1期は、授業とは別に、週に1度、個別相談の時間を一人45分設定する（日時は一人ひとり異なる）。第2期は2週に1度、個別相談時間を設定する（なお要望があればさらに相談時間を設定する）。

●実務経験の授業への活用方法：

●授業予定一覧：  
1. オリエンテーション：学研究とは  
2. 講義と各自の研究発表：研究テーマの設定：第1グループ  
3. 講義と各自の研究発表：研究テーマの設定：第2グループ  
4. 講義と各自の研究発表：研究テーマの設定：第3グループ  
5～7. 講義と各自の研究発表：テーマの重要性の説明（×3グループ）  
8～10. 各自の研究発表とコメント：先行研究の検討（×3グループ）  
11～13. 各自の研究発表とコメント：研究課題の絞込み（×3グループ）  
14～15. 講義と各自の研究発表：全体構成について（×3グループ）  
  
16. 第1期の復習と今後の流れについて  
17～20. 講義とフィールドワークの成果発表：調査プロセス（×3グループ）  
21～23. 講義とフィールドワークの成果発表：データの収集（×3グループ）  
24～27. 講義とフィールドワークの成果発表：データの分析（×3グループ）  
28～30. 課題論文の推敲

※3年生対象

●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：  
第1期は、自身の研究テーマに関する先行研究（学術書・学術論文）を収集し、ノートにまとめながら批判的に読解する。また第2期は、先行研究の検討とともに、フィールド（対象とする地域や組織）に関するデータの収集を進め、実際訪れたり、関連イベントに参加したりすること。

【必携書（教科書販売）】

【必携書・参考書等（教科書販売以外）】



## 社会史演習 [a]

〔担 当 者〕河合 保生  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕4  
〔科目ナンバリング〕250B0-3000-o4

## ●本授業の概要：

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。そのため、はじめに文献検索・地図の活用・資料分析・地域調査など地理学や社会科学に関する基本的な研究方法の習得を行う。次に各自が関心を持つ分野の先行研究や地域調査の結果などの報告を通して、研究テーマを確定していく。このため長期休業中などを利用したフィールドワークは、授業や研究を進める上で重要な意味をもつこととなる。

## ●到達目標：

- ①関連する文献検索や地形図読図・空中写真読解・統計処理・主題図作成などの基本的技術が習得できる。
- ②フィールドワークを通して、地域に関する実践的分析力を獲得することができる。
- ③文献調査やフィールドワークに基づく地域調査の結果を、効果的な手法で発表できる。
- ④最終的に卒業論文を作成する力量が獲得できる。

## ●成績評価の基準：

- ・演習への取り組み度（発表や討論への参加状況）50%（到達目標①②③④）
- ・地理的技能（地図作成など）の修得状況 20%（到達目標①②）
- ・課題レポート 30%（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

- ・オフィスアワー 木曜日9,10時限
- 卒業論文作成のための演習であるので、研究テーマや調査地域の設定などは、各自が積極的かつ主体的に取り組む必要がある。広範な内容を含む地理学でも人文地理学分野での研究を対象とするが、社会科学分野の研究も可能である。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

授業のはじめは、地理学方法論を主とする講義とそれに関連する実習を行う。その後、各自の研究成果の発表をもとにした研究協議を行う。なお、授業の進行に応じ、適当な時期に学外でフィールドワークを行うことがある。

- 1 地理学研究概説
- 2 地理学研究の諸分野
- 3 基本文献と情報検索
- 4 地図類とその利用（地形図を中心に）
- 5 地図類とその利用（大縮尺図の活用）
- 6 統計利用とパソコン
- 7 パソコンの活用方法
- 8 パソコンによる主題図作成
- 9 地域調査の方法（身近な地域の観察）
- 10 地域調査の方法（聞き取り調査）
- 11～30 各自のテーマに基づく文献報告及び調査地域の選定、並びに実践の発表及び研究の深化

※3年生対象

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

毎回の授業では地理学方法論を学ぶためにテキスト以外の教材を配付、紹介するので、予習、復習を通して確実な知識と技能を身につけていただきたい。また、各自の課題発表時には十分な準備を行い、発表後も得られたコメントを生かし、力量を高めて欲しい。パソコンの活用については、時間をかけた習熟が不可欠であるので、授業外の時間を利用し積極的に取り組みましょう。各回予習1時間30分、復習1時間30分は必要である。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

- <必携書>
- 授業時に指示
- ・『ジオ・パル NEO ―地理学・地域調査便利帖―』、野間晴雄他、海青社

## &lt;参考書等&gt;

- ・『GISで楽しい地理授業』、森泰三、古今書院
- ・地形図・空中写真など必要に応じて演習中に指示する。

## 社会史演習 [b]

〔担 当 者〕西尾 和美  
〔開 講 期〕通年  
〔授 業 形 態〕演習 〔単位〕4  
〔科目ナンバリング〕250B0-3000-o4

## ●本授業の概要：

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。

日本社会史を対象とする本演習では、4年生で卒業論文を書くために必要となる、先行研究・史料の収集と講読の技法を身につけ、独自の研究を構想する力を養うとともに、卒論にふさわしい文章の書き方を学ぶ。ゼミ発表、レポート執筆、個別指導を通して段階を踏んで、ゆるやかな卒論テーマの決定に至る。

## ●到達目標：

- ①日本史の諸問題の中から、各自の問題関心にしたがった文献と史料を講読できる。
- ②①の成果にもとづく独自の研究発表を、レジュメにもとづいて行うことができる。
- ③各自の発表に対し、討論の中で自分の意見を言うことができる。
- ④卒業論文の基礎となるレポートを書くことができる。
- ⑤最終的にゆるやかな卒業論文テーマを決定できる。

## ●成績評価の基準：

- 授業への取り組み（発表、討議）50%（到達目標①②③⑤）
- レポート（2回） 50%（到達目標④⑤）

## ●留意事項：

- オフィスアワー 授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. ガイダンス
- 今後の授業の進め方

## 2～15. 文献および史料の講読

受講生の関心ある分野を調整し、基本的な文献を選んで全員で講読するとともに、将来卒論で扱うことが可能な史料をいくつか選んで講読する。それらを通じて、論文の基本を学ぶとともに、史料を読む力を高める。

## 16. 各自の研究テーマと研究の進め方

第1期の授業を通して養った関心にもとづき、各自、1つもしくは複数のテーマを設定する。次回以降の研究発表の進め方について説明する。

## 17～28. 各自の研究発表

各自のテーマにもとづき、論文や史料を探して読み進め、研究発表を行う。

## 29. レポートの構成と執筆について

## 30. 卒業論文テーマに向けて

※3年生対象

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

文献・史料講読、各自の研究発表いずれも、順番に担当者を決めてレジュメを作成・発表の上、全体で討議する。発表者は十分に準備し、ほかの受講生も各回の文献や史料に必ず目を通し、自分以外の発表にも関心を持ち、積極的に授業に参加すること。なお、レジュメ、レポートの作成や発表については『大学生の研究』を参照。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

随時、授業中に紹介する。

## 社会史演習 [c]

〔担 当 者〕 小嶋 博巳  
〔開 講 期〕 通年  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 4  
〔科目ナンバリング〕 250B0-3000-o4

### ●本授業の概要：

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。

社会史演習 c では、民俗学（日本民俗学）の方法論と成果を吸収するために、文献の講読、資料調査、研究発表、レポート作成等を行う。

### ●到達目標：

- ①民俗学の対象・方法およびその成果を理解し、説明できる。
- ②民俗学関係の文献を調査・活用して、その内容を適切にレポートできる。
- ③適切な卒業論文のテーマをみずから決定し、調査・研究を自立して進められる。

### ●成績評価の基準：

授業における発表（討議への参加を含む）：50%（到達目標①②）  
レポート：50%（到達目標①②③）

### ●留意事項：

大学におけるもっとも重要な演習授業であるから、履修者には積極的・主体的な参加を求める。

オフィスアワーは月曜日 3・4 時限とする。もとより、在室の限りは随時、質問・相談に応じる。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

前半は民俗学に関する概説的文献の輪読、および関連する文献調査の報告を行う。後半は、前半で得た知見を踏まえ、資料調査、調査結果の整理・報告、各自の関心にもとづく研究発表を行う。以下にいちおう取り扱う内容を示すが、進行は未確定である。

- 1) オリエンテーション
- 2) イエ
- 3) 伝統的家族のかたち
- 4) 同族と親類
- 5) ムラとはなにか
- 6) ムラの生業
- 7) 遍歴の職能民
- 8) 誕生と子育て
- 9) 子ども組・若者組
- 10) 若者・娘の民俗
- 11) 婚姻の諸類型
- 12) 葬送儀礼
- 13) 墓制
- 14) ムラの祭祀
- 15) 小祠の祭祀
- 16) 同族とイエの祭祀
- 17) 年中行事
- 18) 祈願・呪い・占い
- 19) 口承文芸
- 20) ブックレポート作成
- 21) ブックレポートの発表・講評
- 22) 先行研究の調べ方
- 23) 先行研究の取り上げ方
- 24) 民俗学的情報の収集
- 25) 民俗調査報告書と民俗誌
- 26) 民俗調査の実際
- 27) 民俗調査報告の書き方
- 28) 研究レポートの書き方
- 29) 研究レポートの発表・講評
- 30) 卒業論文テーマの選定

※ 3 年生対象

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

4 年次の卒業論文に直結する授業である。その都度の発表のためではなく、民俗学的知見を深め、学年の最後に適切な論文テーマに到達することを目指して、継続的・発展的な文献講読をしなければならない。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
授業中に随時、紹介する。

## 社会史演習 [d]

〔担 当 者〕 鈴木 真  
〔開 講 期〕 通年  
〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 4  
〔科目ナンバリング〕 250B0-3000-o4

### ●本授業の概要：

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。

### ●到達目標：

- ①口頭発表用のレジュメを形式に則って作成できる。
- ②関心のあるテーマについて、先行研究の整理や問題点の指摘をおこなうことができる。
- ③卒業論文のテーマを決定する。

### ●成績評価の基準：

- ・発表の内容：50%（到達目標①②③）
- ・授業に取り組む姿勢：50%（到達目標①②）

### ●留意事項：

関心のあるテーマについて、日頃から文献を読み、可能な範囲で史料を収集しておくこと。

オフィスアワー 火曜日 9,10時限

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. 概要説明
2. 研究入門（1）史料
3. 研究入門（2）工具書
4. 研究入門（3）通説と概説書
5. 研究入門（4）先行研究と研究論文
- 6～10. 通史講読（1）～（5）  
※ゼミ生の関心に基づき概説書を選定する
- 11～15. 研究論文講読（1）～（5）  
※ゼミ生の関心に基づき論文を選定する
- 16～30. 個別報告  
※ゼミ生の人数・研究進捗により内容を調整する

※3年生対象

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

それぞれの関心・研究テーマに沿い、読書・下調べを継続的にこなうこと（毎回3時間程度）。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

＜参考書等＞  
参考文献は講義中に適宜紹介する。

## 社会史演習 [e]

〔担 当 者〕 轟木 広太郎  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 4  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-3000-o4

## ●本授業の概要：

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を習得する。

## ●到達目標：

- ①ヨーロッパ社会史にふさわしい研究テーマを自分で見出すことができる。  
 ②自分の研究テーマの研究動向を把握することができる。  
 ③史料読解に必要な技術や発想法を活用することができる。

## ●成績評価の基準：

授業での発表と質疑応答（75%）（到達目標①②③）、およびレポート（25%）（到達目標①②③に該当）による総合評価。

## ●留意事項：

オフィスアワーは授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

1. 文献についての導入的説明、および報告の順番の決定  
 2～20. 研究文献および史料の輪読、質疑応答  
 21～30. 個々の研究課題の発表、質疑応答

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業前には、輪読に用いる研究文献および史料をあらかじめ熟読するとともに、関連事項について十分な下調べをしておくことが求められる。また、自由発表の担当者はレジュメの作成に相応の準備時間をかけ、はっきりとした問題意識をもって報告に望み、そこで浮かび上がってきた課題については、教員の指示を参考にさらなる調査を行う（いずれも毎回3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 授業時間に配布する。

## 社会史演習 [f]

〔担 当 者〕 紺谷 亮一  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 4  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-3000-o4

## ●本授業の概要：

各研究領域における方法論・視座・研究動向を理解し、必要な専門的知識および技法を修得する。文献講読、考古学の現場見学、研究発表、レポート作成をおこなう。これらの作業を通して、卒業論文の作成にのぞむ。

## ●到達目標：

- ①レジュメ作成のポイント、プレゼンテーション方法を身につけ、他人に自分の意見を簡潔に説明することができる。  
 ②データ操作の仕方、蓄積したデータの意味を論述することができる。  
 ③先行研究、データ蓄積、データ処理、考察およびまとめ、という論文構成に則って自身の研究的オリジナリティーを説明することができる。

## ●成績評価の基準：

研究発表（レポート含む）：60%（到達目標①②③）  
 取り組み姿勢：40%（到達目標①②③）

## ●留意事項：

授業以外にも自らのフットワークを活かして研究する姿勢をとってほしい。  
 オフィスアワー 授業中に指示する

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

- 以下の内容を組み込んで進める。  
 1～6. 考古学に関する概説的文献の輪読  
 7～12. 最新の考古学研究の紹介  
 13～18. 美術館・博物館・発掘現場見学  
 19～24. 考古学専門家との情報交換  
 24～30. 各自の関心にもとづく研究発表

※3年生対象

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
 輪読する書籍は随時紹介する。

## 卒業論文〔現 a〕

〔担 当 者〕 河合 保生  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 6  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-4000-o6

## ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

## ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーは、木曜日9・10時限。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション  
 5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）  
 詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。  
 1月中旬～2月上旬 口頭試問  
 2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

この授業は卒業論文作成のために演習形式で行うので、研究テーマの設定、先行研究の検討、フィールドワークの報告などについて、明確な発表目的に基づく発表要旨やプレゼンテーション資料の作成が必要である。このため、十分に時間をかけた授業外準備が不可欠である。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『大学生の研究—その技法とルール—』（1年次購入済み）  
 『ジョ・バルネオ第2版』（3年次購入済み）

## 卒業論文〔現 b〕

〔担 当 者〕 小嶋 博巳  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 6  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-4000-o6

## ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

## ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーは月曜日3・4時限とする。もとより、在室の限りは随時、質問・相談に応じる。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション  
 5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）  
 詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。  
 1月中旬～2月上旬 口頭試問  
 2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

授業では数週間おきに論文の進捗状況の発表をくり返すことになるが、その準備のためだけでなく、最終的な論文完成に向けて、計画的かつ恒常的に、先行研究の読破、資料調査（フィールドワーク・文献調査）、分析・考察を行っていかなければならない。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『大学生の研究—その技法とルール—』（1年次購入済み）  
 <参考書等>  
 各自の研究テーマに即して、随時、必要な文献は紹介する。



## 卒業論文〔現 c〕

〔担 当 者〕 紺谷 亮一  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 6  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-4000-o6

## ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

## ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーは、各担当教員が授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション

5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）

詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。

1月中旬～2月上旬 口頭試問

2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『大学生の研究——その技法とルール——』（1年次に購入済み）

## 卒業論文〔現 d〕

〔担 当 者〕 鈴木 真  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 6  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-4000-o6

## ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

## ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーは、授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション

5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）

詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。

1月中旬～2月上旬 口頭試問

2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

『大学生の研究——その技法とルール——』（1年次に購入済み）

## 卒業論文 [ 現 e ]

[担 当 者] 轟木 広太郎  
[開 講 期] 通年  
[授 業 形 態] 演習 [単位] 6  
[科目ナンバリング] 250B0-4000-o6

### ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

### ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

### ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

### ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーは授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

1. オリエンテーション
- 2～5. レジュメに沿った研究成果の発表と全体討論（研究テーマの決定）
- 6～10. レジュメに沿った研究成果の発表と全体討論（研究対象の決定）
- 11～15. レジュメに沿った研究成果の発表と全体討論（史料の読解）
- 16～20. レジュメに沿った研究成果の発表と全体討論（論文構成の発表）
- 21～30. 論文の執筆

なお、論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション  
5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）  
詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。  
1月中旬～2月上旬 口頭試問  
2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

自由発表の担当者はレジュメの作成に相応の準備時間をかけ、はっきりとした問題意識をもって報告に望み、そこで浮かび上がった課題については、教員の指示を参考にさらなる調査を行う（いずれも毎回3時間程度）。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>  
『大学生の研究——その技法とルール——』（1年次に購入済み）

## 卒業論文 [ 現 f ]

[担 当 者] 中山 ちなみ  
[開 講 期] 通年  
[授 業 形 態] 演習 [単位] 6  
[科目ナンバリング] 250B0-4000-o6

### ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

### ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

### ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

### ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーについては、授業中に指示する。

### ●実務経験の授業への活用方法：

### ●授業予定一覧：

論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション  
5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）  
詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。  
1月中旬～2月上旬 口頭試問  
2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

### ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

自身の研究の射程を長期的視野でとらえ、その時点での必要な作業に、自発的・積極的かつ根気強く取り組むことが大切である。「発表のため」の勉強をするのではなく、文献を読む・資料を探す・調査をするなど、自分で課題をみつけて取り組まなければならない。そのために毎週少なくとも4～5時間程度の勉強時間を確保すること。もちろん、発表前の準備には十分な時間をかけて臨まなければならない。

### 【必携書（教科書販売）】

### 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

『大学生の研究——その技法とルール——』（1年次に購入済み）

## 卒業論文〔現 g〕

〔担 当 者〕 二階堂 裕子  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 6  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-4000-o6

## ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

## ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーは、授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション

5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）

詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。

1月中旬～2月上旬 口頭試問

2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

（予習）研究テーマに関する文献の検討、調査の企画と実施、および収集データの分析などを進めたいうえで、発表者はそれらに関するプレゼンテーション用のレジュメを作成する（毎回3時間程度）。

（復習）ゼミでの発表と、それに対する質疑応答の成果をふまえて、卒業論文の執筆に取り組む（毎回3時間程度）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

『大学生の研究——その技法とルール——』（1年次に購入済み）

## 卒業論文〔現 h〕

〔担 当 者〕 西尾 和美  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 6  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-4000-o6

## ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

## ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーは、授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション

5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）

詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。

1月中旬～2月上旬 口頭試問

2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

文献・史料の収集・講読を計画的に進め、段階を踏んで卒論の章節を構想し、ゼミ発表に際しては適切なレジュメを作成して臨むこと。また、発表後は、ゼミでの指摘や指導をふまえて、手直しを行うこと。日々、計画的な授業外学習が不可欠である。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『大学生の研究——その技法とルール——』（1年次に購入済み）

## 卒業論文〔現Ⅰ〕

〔担 当 者〕 濱西 栄司  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 6  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-4000-o6

## ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

## ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーは、各担当教員が授業中に指示する。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション

5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）

詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。

1月中旬～2月上旬 口頭試問

2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- ・1年を通して、各自の研究テーマに関する先行研究の検討、及び研究課題の絞込み、フィールドワーク（インタビュー調査や資料収集、参与観察を含む）を進めること（毎日数時間）。

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『大学生の研究—その技法とルール—』（1年次に購入済み）

## 卒業論文〔現Ⅱ〕

〔担 当 者〕 藤實 久美子  
 〔開 講 期〕 通年  
 〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 6  
 〔科目ナンバリング〕 250B0-4000-o6

## ●本授業の概要：

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

## ●到達目標：

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

## ●成績評価の基準：

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

## ●留意事項：

- ・履修登録は4年次第1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。

## ●実務経験の授業への活用方法：

## ●授業予定一覧：

## ①授業予定

- 1 オリエンテーション・研究成果の整理と討論
- 2・3 先行研究に基づく発表と卒業論文題目の決定
- 4～15 史料分析に基づく発表と討論
- 16～19 補充史料の分析に基づく発表と討論
- 20～28 論文の執筆と論点の明確化
- 29・30 卒業論文の要旨執筆

## ②論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション

5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2020年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）

詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。

1月中旬～2月上旬 口頭試問

2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

## ●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：

- （予習）口頭発表については、日ごろから十分に準備をしておくこと
- （復習）口頭発表後の課題について確認し、各自、考察を進めておくこと
- （論文の執筆）完成度の高いものに仕上げてから、指導を受けるようにすること

## 【必携書（教科書販売）】

## 【必携書・参考書等（教科書販売以外）】

<必携書>

『大学生の研究—その技法とルール—』（1年次に購入済み）

<参考書等>

なし



**卒業論文〔現 k〕**

〔担 当 者〕 山下 美紀

〔開 講 期〕 通年

〔授 業 形 態〕 演習 〔単位〕 6

〔科目ナンバリング〕 250B0-4000-o6

**●本授業の概要：**

現代社会学または社会史に属する研究課題を取り扱うもので、かつ大学における学業の集大成とするにふさわしい水準に達した卒業論文の完成に向けて、指導を行う。

**●到達目標：**

- ①意義のある研究テーマを設定することができる。
- ②信頼のおける文献・資料・史料の調査と収集を行うことができる。
- ③客観的かつ公平なデータの整理・分析・考察を行うことができる。
- ④自らの研究の独自性がどこにあるのかを明示することができる。

**●成績評価の基準：**

卒業論文：100%（到達目標①②③④）

**●留意事項：**

- ・履修登録は4年次1期に行うこと。
- ・提出された論文に口頭試問を加味して評価する。
- ・口頭試問は、原則として指導教員が主査、その他の教員が副査をつとめる。
- ・口頭試問終了後、要旨を執筆して提出しなければならない。
- ・オフィスアワーは火曜日5・6時限。

**●実務経験の授業への活用方法：****●授業予定一覧：**

論文提出等の期日は下記のとおり。

2019年

4月2日（火）4年生オリエンテーション

5月6日（月）～10日（金）題目提出（16時30分まで）

2010年

1月6日（月）～10日（金）卒業論文提出（16時30分まで）

詳細は「現代社会学科卒業論文要項（2019年度版）」によること。

1月中旬～2月初旬 口頭試問

2月中旬 卒業論文要旨提出

※卒業延期者（9月卒業予定者）の論文提出締め切りは、別途、定める。

**●準備学習（予習・復習）に必要な学修内容：**

複数回の研究発表会を実施する。十分な準備をして臨んでもらいたい。卒業研究に必要なデータの収集だけでなく、多様な講演会・シンポジウム等にも参加し、見聞を広めてほしい。

**【必携書（教科書販売）】****【必携書・参考書等（教科書販売以外）】**

<必携書>

『大学生の研究——その技法とルール——』（1年次に購入済み）

